社会福祉法人万葉の里　令和３年度　事業報告

Ⅰ.令和３年度　事業総括 …… 1

表１　令和３年度　障害者センター利用状況一覧
表２　KOCO・ジャム利用状況一覧

Ⅱ. 障害者センター事業部門 …… 5
障害者センター事業部門全体総括
1. 地域活動支援センターつばさ …… 8
2. 生活介護事業　太陽 …… 15
3. 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき …… 18
4. 就労継続支援事業Ｂ型　どーむ …… 22
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ …… 25
6. 保健衛生事業 …… 27

Ⅲ.KOCO・ジャム事業部門 …… 30
KOCO・ジャム事業部門全体総括
1.生活介護事業この里 …… 33
2.共同生活援助事業　ケアホームひかり …… 37
ケアホームこの葉
3. KOCO・ジャム短期入所事業 …… 41
4.居宅介護事業ウイング …… 43

Ⅳ.基幹相談支援センター部門 …… 46

Ⅴ.法人全体事業 …… 53

Ⅵ.理事会・評議員会等 …… 58

Ⅰ　事業総括

令和３年事業運営状況について

理事長　　室地　隆彦

新型コロナの感染拡大とその予防対策がはじまりすでに２年が経過した。この間、緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置の発出が繰り返される中でのコロナの感染拡大は法人の経営や事業運営など様々な部分に影響を与えた。

まず、経営面では、国分寺市障害者センターにおいて、委託業者職員から感染者が発生したことにより８月から９月にかけて計 11 日間の閉館となった。また令和４年２月にも職員や利用者の中から複数の陽性者や濃厚接触者が発生し、５日間の閉館を余儀なくされた。

この間、結果的には減収を回復することには至らず、国分寺市障害者センター事業部門においては、指定管理事業者となって初めてマイナス決算となってしまった。コロナウィルスの感染拡大は経営面で大きな影響を与えた。

今後は、コロナ禍の影響もぬぐえないが、特に、障害者センター事業部門では事業規模の大きい生活介護事業太陽の利用率の向上、KOCO・ジャム事業部門では、居宅介護事業ウィングの利用時間の向上への工夫が経営面での改善につながるものと捉えている。

次に、事業運営面である。障害者福祉事業は、新型コロナウィルスの感染拡大のなかにあっても事業を継続していくことが前提となっている。事業を継続するにあたっては様々な制約がある中、色々な工夫を凝らしながら事業の継続の試みがなされた。

例えば、オンラインを使った会議や研修、入所式、実践報告会。複数の会場をオンラインで結んだセンター祭りの開催などは新たなお祭りの可能性を見出した。さらには、センターの施設を使ったこれまでのプログラムに変えて、地域を活動の場として活かすなどウィズコロナの時代に合った活動やサービス提供の工夫も見られた。

また、令和４年２月の法人内での感染拡大にあっては、職員にも自宅待機者が増え職員配置が回らなくなる、陽性者となったグループホーム利用者のご家族が体調を崩され、利用者を隔離施設で支援することとなったが、その際、各事業部門からも職員の応援体制を組み、法人全体で支援する態勢がつくれたなど法人内での連携が進んだ。

計画に基づいた事業運営については、令和３年度は、令和４年度から令和８年度の５か年を計画期間とした中期計画の策定に取り組んだ。策定にあたっては、主任も含めた職員参加により議論を重ね策定した。これまで、人材育成については、課長面談や職場での OJT などを通じて行ってきたが、重要事項の策定に職員が参加することで、お互いのコミュニケーションや相互理解が深まり、人材育成にも繋がった。今後は、中期計画の進行管理をどのよ

うに行っていくかが課題である。

また、中期計画の作成を行うことで、それと並行して行っていた国分寺市障害者センターの第6期指定管理者の受託に向けた準備作業につなぐことができた。

なお、令和3年度末で職員の退職者・退職希望者があった。退職者を出すということは、事業運営にも大きな影響を及ぼすのはもちろんだが、職員が働き続けたいと思う職場環境づくりが大切であり、そのことが今後の法人の人材育成に繋がると痛感している。

令和3年度 国分寺市障害者センター 利用状況一覧

月	生活介護事業				自立訓練・機能訓練				自立訓練・生活訓練				就労継続支援B型				合計		
	太陽（定員：1日当り38人）				機能訓練はばたき（定員：1日当り6人）				生活訓練はばたき（定員：1日当り6人）				どーむ（定員1日当たり10人）						
	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	延利用日数	平均利用者数
令和3年4月	48	21	763	36.3	3	8	24	3.0	7	13	70	5.4	18	25	210	8.4	76	1,067	53.1
令和3年5月	47	18	633	35.2	3	7	21	3.0	7	11	49	4.5	18	23	183	8.0	75	886	50.7
令和3年6月	47	22	799	36.3	4	9	29	3.2	7	13	72	5.5	18	26	219	8.4	76	1,119	53.4
令和3年7月	47	20	728	36.4	4	8	26	3.3	6	12	53	4.4	18	25	193	7.7	75	1,000	51.8
令和3年8月	47	16	534	33.4	4	6	21	3.5	6	9	38	4.2	18	18	144	8.0	75	737	49.1
令和3年9月	47	20	627	31.4	4	8	24	3.0	6	12	51	4.3	18	20	158	7.9	75	860	46.6
令和3年10月	47	21	759	36.1	4	8	30	3.8	6	13	72	5.5	18	26	203	7.8	75	1,064	53.2
令和3年11月	47	20	731	36.6	4	8	31	3.9	6	12	61	5.1	18	24	193	8.0	75	1,016	53.6
令和3年12月	47	20	725	36.3	3	8	24	3.0	5	12	55	4.6	17	24	176	7.3	72	980	51.2
令和4年1月	46	19	682	35.9	3	8	21	2.6	5	11	48	4.4	17	23	165	7.2	71	916	50.1
令和4年2月	45	14	445	31.8	3	6	14	2.3	6	9	44	4.9	17	18	130	7.2	71	633	46.2
令和4年3月	45	22	700	31.8	3	10	28	2.8	5	12	54	4.5	17	26	176	6.8	70	958	45.9
合計	560	233	8,126	417.5	42	94	293	37.4	72	139	667	57.3	212	278	2150	92.7	886	11,236	604.9
平均	46.7	19.4	677.2	34.8	3.5	7.8	24.4	3.1	6.0	11.6	55.6	4.8	17.7	23.2	179.2	7.7	73.8	936.3	50.4
平均利用率				91.6%				51.9%				79.6%				77.3%			84.0%
令和2年度合計	591	243	8,407	414.8	42	96	296	37.6	84	147	755	61.6	224	295	2,418	98.4	941	11,876	612.3
令和2年度平均	49.3	20.3	700.6	34.6	3.5	8.0	24.7	3.1	7.0	12.3	62.9	5.1	18.7	24.6	201.5	8.2	78.4	989.7	51.0

月	短期入所			日中一時支援			相談支援事業				
							相談				
	開所日数	延利用泊数	1日平均	延利用人数	1日平均	時間合計	開所日数	件数	新規（再掲）	1日平均	サービス利用計画作成
令和3年4月	30	24	0.8	25	0.8	93	27	1153	7	42.7	81
令和3年5月	31	29	0.9	37	1.2	126	25	1166	4	46.6	85
令和3年6月	30	30	1.0	30	1.0	85	28	1230	7	43.9	74
令和3年7月	31	50	1.6	44	1.4	174	27	1180	4	43.7	68
令和3年8月	31	24	0.8	43	1.4	158	28	1087	3	38.8	74
令和3年9月	30	24	0.8	37	1.2	141	26	1102	11	42.4	82
令和3年10月	31	27	0.9	36	1.2	110	28	1012	9	36.1	68
令和3年11月	30	29	1.0	44	1.5	131	26	916	10	35.2	72
令和3年12月	31	31	1.0	49	1.6	189	26	854	10	32.8	83
令和4年1月	31	27	0.9	31	1.0	121	25	822	8	32.9	62
令和4年2月	28	17	0.6	32	1.1	126	24	807	8	33.6	69
令和4年3月	31	27	0.9	56	1.8	243	28	943	7	33.7	81
合計	365.0	339.0	11.2	464.0	15.2	1697.0	318.0	12272	88.0	462.4	899
平均	30.4	28.3	0.9	38.7	1.3	141.4	26.5	1023	7.3	38.5	75
平均利用率											
令和2年度合計	365	324	10.5	391	12.8	1,449	316	12,798	67	484	767
令和2年度平均	30.4	27.0	0.9	32.6	1.1	120.8	26.3	1066.5	5.6	40.3	63.9

令和3年度KOCO・ジャム　利用状況一覧

月	短期入所			基幹相談支援事業				生活介護事業				居宅介護事業			ケアホームひかり				ケアホームこの葉			
	開所日数	延利用泊数	1日平均	開所日数	件数	新規	1日平均	契約人数	開所日数	延利用日数	1日平均	派遣時間	利用者数	稼働ヘルパー	開所日数	契約人数	延利用人数	1日平均	開所日数	契約人数	延利用人数	1日平均
令和3年4月	30	2	0.1	25	364	14	15.0	14	21	263	12.5	505.0	43	18	30	12	331	11.0	30	14	337	11.2
令和3年5月	31	5	0.2	23	333	15	14.0	14	18	222	12.3	498.0	44	18	31	12	326	10.5	31	14	286	9.2
令和3年6月	30	30	1.0	26	379	14	15.0	14	22	289	13.1	569.0	47	20	30	12	340	11.3	30	14	343	11.4
令和3年7月	31	33	1.1	25	253	5	10.0	14	20	263	13.2	543.5	46	19	31	12	341	11.0	31	14	334	10.8
令和3年8月	31	34	1.1	25	281	8	11.0	15	21	283	13.5	482.0	43	17	31	12	340	11.0	31	14	315	10.2
令和3年9月	30	30	1.0	24	267	10	11.0	15	20	261	13.1	515.0	45	20	30	12	332	11.1	30	14	301	10.0
令和3年10月	31	17	0.5	26	402	23	15.0	14	21	244	11.6	533.0	49	21	31	12	322	10.4	31	14	353	11.4
令和3年11月	30	2	0.1	24	341	8	14.0	14	20	247	12.4	528.0	49	18	30	12	308	10.3	30	14	334	11.1
令和3年12月	31	5	0.2	24	279	11	12.0	14	20	257	12.9	602.0	55	23	31	11	306	9.9	31	15	360	11.6
令和4年1月	31	5	0.2	23	325	8	14.0	14	19	242	12.7	529.5	49	20	31	11	295	9.5	31	15	336	10.8
令和4年2月	28	0	0.0	22	283	8	13.0	15	17	231	13.6	476.0	47	19	28	11	268	9.6	28	15	294	10.5
令和4年3月	31	0	0	26	435	18	17.0	15	22	271	12.3	503.8	52	20	31	11	303	9.8	31	15	378	12.2
合計	365	163	5.5	293	3942	142	161.0	172	241	3073	153.2	6,284.75	569.0	233.0	365	140	3812	125.4	365	172	3971	130.4
平均	30.4	13.6	0.5	24.4	328.5	11.8	13.4	14.3	20.1	256.1	12.8	523.7	47.4	19.4	30.4	11.7	317.7	10.5	30.4	14.3	330.9	10.9
平均利用率											63.8%							87.1%				72.4%
令和2年度合計	274	22	0.9	293	3259	113	134.0	128	243	2277	112.5	6,693.3	547.0	203.0	365	144	3846	126.9	365	148	3480	115.0
令和2年度平均	30.4	2.4	0.1	24.4	271.6	9.4	11.2	10.7	20.3	189.8	9.4	557.8	45.6	16.9	30.4	12.0	320.5	10.6	30.4	12.3	290.0	9.6

Ⅱ　障害者センター事業部門

1 事業全体を振り返って

令和３年度は昨年度に引き続き、年間を通じて様々な形で、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた。事業継続のため感染対策を徹底し、昨年同様に活動や運営に制限を設けながらの運営を行った。残念ながら８月と２月に感染者が出たため、２回の臨時閉館を行った。一方で活動可能な時期には、昨年度実施できなかったセンターまつりなどのイベントもオンラインなどを活用して実施することができた。年間を通じて、利用率の低下などによる給付費の減少が課題となったが、改善には至らなかった。

(1) 事業運営

８月に７日間、９月に４日間、２月に５日間、新型コロナウイルス感染者が出たため臨時閉館を行った。また年間を通じて緊急事態宣言やまん延等防止重点措置などの発令により、事業計画や予算執行に遅れが出たが感染対策に重点を置いた運営を行った。

①生活介護事業太陽は利用者や職員に感染者が出たことによる臨時閉館により、新型コロナウイルスによる影響が最も大きかった。その中でも利用者の多くは通所を継続し、実施可能な活動や少人数に分かれた行事などは、安全に実施できる時期に行った。今後も少人数の活動やオンラインの活用など、運営を工夫し活動の継続を図っていく。

年度当初に起きた人工呼吸器の事故については、通年で看護師の再研修を行ったほか、太陽職員に人工呼吸器の取り扱いなどの研修を実施し、意識の向上を図るようにした。

②就労継続支援事業どーむでは、２年目を迎えた喫茶いずみの弁当のテイクアウトの取組は順調に推移した。一方、スイーツでは消費期限の誤表記の事故や、利用者も不調による欠席が目立ち、安定した運営には至らなかった。販売行事などは実施できる機会が増え、徐々に参加している。

③自立訓練事業はばたきでは、オンラインによる事業所紹介を試行し、事業内容の周知を図った。今後も改良を加えながら実施していく。

④短期入所・日中一時支援事業えんじゅでは、密を避けるため人数制限を行って運営をしている。このため利用人数は減少した。ご家族の疾病・入院に伴う緊急を要する利用者を短期入所事業で受け入れたが、すでに予約をしていた利用者との日程調整が難しく今後対応が課題となった。

また、地域生活支援拠点の機能として、緊急入所保護事業を実施しているが、運用方法については、市と協議を行う中で、新たな地域課題を把握し、取り組んでいく。

⑤地域活動支援センターつばさでは臨時閉館により、２回にわたり交流サロンやプログラムを一時期休止したが、地域で活動を行うことや、利用者が主体的に企画運営に参加できるようにサポートすることをとおして、活動をセンター内にとどめず、地域にも活動の場を広げていくことを目指している。

(2)利用者支援

感染拡大防止に重点を置いた支援を実施した。定員を減らす、送迎車の乗車人員を減らすため来所時間の調整、密を減らす取組、マスクの着用、毎日の検温などによる体調管理や、手指消毒を励行している。職員はフェイスシールドやゴーグルの着用、マスクや手袋の使用を的確に行い、館内消毒を頻回に行うなど、感染防止に努めている。このような中でも、昨年度はほとんど実施できなかった外出や、買い物支援、宿泊体験、行事などの一部は感染対策を行いながら実施した。またオンラインを活用して、センターまつりを1週間にわたり実施し、コロナ禍における新たな活動の可能性を感じることができた。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

①令和3年度の計画で、利用者の獲得と利用率の向上・魅力的な事業を創ることを目標とした。コロナによる影響で、順調には進まなかったが、生活介護事業太陽は、特別支援学校の実習を複数受入れ、次年度には2名の卒業生を受け入れる予定である。今後も、より重度の方が利用する事業所としての役割を果たしていく。

自立訓練事業はばたきは、事業内容の周知と5日間利用できる事業所を目指して検討を続けている。オンラインを活用した事業所説明会などを企画し、利用者や支援者に情報を届ける努力を続けていく。はばたきに限らず、各事業でもニーズを掘り起こすこと、ニーズに対応できることを継続していく。

②地域活動支援センターつばさでは、利用者支援を地域で行えるように、引き続き地域に活動場所を開拓し、活動を実施している。プログラムを施設外でも行うことで、地域で暮らすことを意識し、様々な関係性を作る支援を継続する。

(3)人材育成

管理者が課長等と面談を行い、普段のコミュニケーションに加え、管理職層に現在の課題について話しあう機会を設けた。

職員に対する課長面談は、コロナの影響で時期的に遅れはあったが各課とも職員目標・課題設定シートを活用し、実施している。職員が自ら育成方針を意識できるように効果的な面談を定期的に実施する必要がある。

OJTについては、太陽では介護研修を兼ねて介護技術のOJTが通年で行われた。また呼吸器の事故についての研修も実施できている。今後の課題として、あらゆる階層で自らの目標を定め、OJTを実施していく。

(4)新型コロナウイルス対策の継続と新たな課題への取組

引き続き新型コロナウイルス対策を確実に行い、安全に配慮した運営を継続した。

2月には、複数名の利用者や職員に、コロナ陽性が判明した。その内の1名の利用者はご自宅で療養をしていたが、ご家族の感染が判明し、ご本人の入院もできなかったため緊急の

対応が必要となった。従来からグループホーム等で陽性者が発生した場合の対応について、市や関係機関と協議を続け、市が指定する隔離場所を活用することを確認していた。この指定された施設を活用し、法人全体の職員の協力体制を組み、防護服を着用するなどの感染防止対策を取った上で、約1週間の陽性者支援を実施した。市及び他法人とも連携して、直接支援ができたことは、今後の陽性者等の支援の在り方を検討する事例となった。また2回の臨時閉館を経験し、事業運営に多大な影響が出たことを鑑みて、安全かつできる限り素早い対応を図っていく必要性を感じている。

1. 地域活動支援センター　つばさ

(1) 事業全体を振り返って

サロン事業ではいきいきセンターの活用や外出プログラム、市内のイベント参加（ボッチャ大会）等を積極的に行い、色々な体験の場の提供や地域住民との交流の機会を作った。コロナ禍で外出や運動の機会が減っている利用者も、職員が引率することで安心・安全に地域の活動に参加できている。これについては就労支援センターからも、「余暇を有意義に過ごせていることが、職場で良い評価につながっている方がいる」との報告を受けており、地域生活を支える一翼を担っていると考える。

地域定着支援については対象者や支援内容について障害福祉課と協議を行った。対象者の選定や契約書等の整えに時間を要し支援開始に至っていないが、来年度早期の支援開始に向けて準備を急ぎたい。

相談業務全般においては、プログラムを整理したことにより個別相談に対応できる時間が増加し、面談や同行等の支援及び関係機関との連携を強化することが出来た。計画相談との連携については、サービス利用開始までの整えや初回のサービス等利用計画作成などのサービス導入時の関わり、困難ケースや世帯での支援が必要なケースでの協働、計画相談終了者（サービス利用終了やセルフプランへの切り替え等）に総合相談でいつでも相談ができることをアナウンスしアフターフォロー体制を整えるなどを行い、チーム支援体制を強化した。

(2) 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	目標に対する到達状況	課題
計画相談	専門員会議を活用し、サービスに関する情報共有、業務課題の検討、事例検討を行い、全相談員が技術向上、最新情報の共有ができるよう努めた。 新規の利用希望者については、待機リストを作成し、こどもの発達センターつくしんぼとの引継ぎ時期等も含んで調整をした。	市全体の課題である新規利用者の増加への対応と、相談の質の確保のバランスについては市とも協議しながら対応する。
総合相談・一般相談	個別相談に対応するため、面談・手続き同行・通院同行等の支援時間が増加した。また退院前の病院との引継ぎや、通所、グループホーム等の見学などで関係機関との連絡調整が増えたことも特徴の一つである。	多岐にわたる相談に対応するため、相談員としてのスキルアップが求められている。要件を満たしている職員には積極的に相談支援専門員等の資格取得を推進したい。
サロン事業・夕日かがやき事業	交流サロンはコロナ感染拡大防止対策として１日２枠を継続。 プログラムは、館内での定期プログラム、月１回の健康プログラム（いきいきセンター）、不定期のスペシャルプログラム、市報に掲載されたイベントへの参加等、色々な	更新面談等で利用者のニーズを把握し、各々にあったサロン事業の利用の仕方を一緒に考えたり、新たに挑戦したいこと等をプログラムに反映できるように努め

	方が参加しやすい形態で企画運営をした。特にたがやし隊やスペシャルプログラムはつばさに登録していなくても見学やお試し参加可として、新しい方が参加しやすい環境を整えた。	る。
障害者ピアサポート事業	健康、環境、防災等の身近なテーマでの学習会や意見交換を行い、生活力を高める知識を得たり、色々な考えや価値観に触れたりする機会とした。	利用者の興味や話しやすさを考えてテーマを設定したり、色々な活動を通じて交流できるように工夫をする。
関係機関との連携（高次脳機能障害支援促進事業・発達障害理解促進事業）	オンラインを活用しながら、基礎講座・当事者のゲストスピーカー・パネルディスカッション等、色々なニーズに応えられるような会を企画した。 ４月には発達障害に関するパネル展示や市民福祉講座を企画し、発達障害啓発週間のイベントを開催した。	対面・オンラインを組み合わせたハイブリッド型の運営に向けて準備をしていく。
対面朗読者派遣事業	今年度の利用は１名。登録者全員に利用希望やニーズに関する聞き取りを実施し、障害福祉課とも情報共有した。	現在活動できる朗読者が１名のため、利用希望者が増えた場合に調整が必要。
市民福祉講座	昨年度未実施だった１回を含めて、全４回の講座を開催。第１～３回はオンラインを基本として開催。第４回については対面で開催するため、部屋の環境が整った都立多摩図書館会議室を初めて使用した。	公民館や他団体が開催する研修等の日程やテーマが重複していることがあるので、障害福祉課と相談して調整をしていきたい。
当事者活動支援	各グループ（直接の支援は昨年度で終了）が独自に公民館等での活動を継続。随時活動の報告が入る。	自主活動を開始したいという要望があれば支援開始をする。また支援を終了したグループも必要に応じてアフターフォローを行う。

(3) 活動実績

1)相談実績

総数　12,272 件（総合相談　5,751 件、計画相談　6,521 件）
平均相談件数　38.8 件（実働日　316 日）
新規相談　88 件

相談支援の方法　（単位 件）

種別	訪問	来所	同行	電話	メール	CC	関係機関	その他	計
一般	85	457	55	4,309	11	19	772	43	5,751
(前年)	(210)	(650)	(22)	(5,630)	(33)	(3)	(203)	(71)	(6,822)

計画 (前年)	506 (383)	607 (503)	36 (19)	2,093 (2,567)	17 (41)	65 (32)	3,117 (2,146)	80 (285)	6,521 (5,976)
計	591 (593)	1,064 (1153)	91 (41)	6,402 (8,197)	28 (74)	84 (35)	3,889 (2,349)	123 (356)	12,272 (12,798)

*CC(ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ)： 関係者会議。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

相談内容

総合相談 （単位 ： 件） （構成比%）

福祉ｻｰﾋﾞｽ	785	10.6
障害理解	672	9.1
健康医療	1,017	13.8
不安解消	3,098	42.0
保育教育	35	0.5
家族・人間関係	741	10.0
家計経済	139	1.9
生活技術	327	4.4
就労	157	2.1
社会参加・余暇活動	234	3.2
権利擁護	37	0.5
その他	138	1.9
地域移行	0	0
合計	7,380	100

計画相談 （単位 ： 件） （構成比%）

福祉ｻｰﾋﾞｽ	5,601	66.4
障害理解	978	11.6
健康医療	475	5.6
不安解消	284	3.3
保育教育	72	0.9
家族・人間関係	175	2.1
家計経済	40	0.5
生活技術	46	0.5
就労	72	0.9
社会参加・余暇活動	17	0.2
権利擁護	62	0.7
その他	616	7.3
合計	8,438	100

※相談内容は、1回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

計画相談の契約数

契約者数　　330人(3月末)

ｻｰﾋﾞｽ等利用計画作成件数	328件
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ報告件数	571件

2)サロン事業

①プログラム別参加者数

プログラム名	令和３年度実績（人）	平均参加人数（人）	実施回数（回）
交流サロン	1357	5.0	269
パソコン広場	66	3.3	20
あーとサロン	146	6.6	22
合計	1569	—	—

②つばさトーク

開催日	テーマ	参加者
5月 18 日	心と身体の健康について	3 人
6月 19 日	学習会「健康について考えよう」	4 人
8月 17 日	最近の近況、楽しかったこと、よかったこと	4 人
10月 5 日	学習会「防災について考える」	7 人
1月 15 日	書初め	10 人
3月 29 日	花見	4 人

③いきいきﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・ｽﾍﾟｼｬﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ

開催日	内　容	参加者
4月 10 日	公園を歩こう（プレイスと合同）	9 人 (内、ﾌﾟﾚｲｽ 5 人)
4月 25 日	りらっくすヨガ	5 人
5月 1 日	ボッチャ（プレイスと合同）	11 人 (内、ﾌﾟﾚｲｽ 7 人)
5月 23 日	楊名時太極拳	4 人
6月 5 日	ボッチャ（プレイスと合同）	10 人 (内、ﾌﾟﾚｲｽ 8 人)
7月 25 日	楊名時太極拳	2 人
8月 22 日	りらっくすヨガ	3 人
9月 26 日	楊名時太極拳	3 人
10月 2 日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	13 人
11月 6 日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	11 人
11月 28 日	楊名時太極拳	3 人
12月 25 日	冬のアート教室（門松、しめ縄飾り）	12 人
12月 26 日	りらっくすヨガ	3 人
1月 23 日	室内ホッケー	10 人
2月 27 日	楊名時太極拳	3 人
3月 27 日	りらっくすヨガ	2 人

④たがやし隊

開催日	内　容	参加者
4月 8日	花の苗、野菜の種を植える	1人
5月 20日	草取り	1人
6月 8日	草取り、カブの収穫	2人
6月 15日	花の苗と種を植える	5人
7月 15日	屋上の草取り	2人
8月 5日	草取り、ミョウガの収穫、大葉の間引き	4人
9月 7日	種芋を植える	2人
9月 16日	花の苗、イチゴの苗を植える	1人
10月 7日	ジャガイモの土寄せ、ラディッシュの種植え、イチゴの苗植え	2人
10月 21日	ラディッシュの間引き、ジャガイモの虫よけ、ミョウガ掘り	6人
11月 4日	花の苗を植える	2人
11月 18日	オハナ農園に苗を買いに行く	2人
12月 2日	ジャガイモ掘り	2人
12月 16日	市内の農家に竹取り	2人
12月 23日	ジャガイモ掘り（はばたきと合同）	2人
1月 6日	畑の土おこし	2人
1月 20日	畑の土おこし	3人
2月 3日	土づくり	1人
3月 3日	土づくり、収納庫設置のためのスペース整理	2人
3月 17日	土づくり、収納庫設置	2人

⑤夕日かがやき事業

○プレイス

日程	内　容	参加者
4月 10日	公園を歩こう	5人
5月 1日	ボッチャ	7人
6月 5日	ボッチャ	8人
7月 3日	ゴミについての学習会とエコバッグづくり	10人
8月 7日	自己紹介と、4月からの活動の振り返り	9人
10月 2日	ノルディックウォーキング	10人
11月 6日	ノルディックウォーキング	11人
12月 4日	ボッチャ交流会	11人
2月 5日	フラダンス	9人
3月 5日	ボッチャ	9人

○WRAP（元気回復行動プラン）グループ

日程	内容	参加者
4月10日	安心のための同意と希望の感覚ってどんなもの?	8人
5月 8日	希望の感覚ってどんなもの?	6人
6月12日	学びはあなたに何をもたらす?	6人
7月10日	SELF ADVOCACY(自分のために権利擁護すること)	4人
8月14日	元気に役立つ関係性	3人
9月11日	ｻﾎﾟｰﾄの関係	4人
10月9日	いい感じの自分と日常生活プラン	5人
11月20日	引き金と対応プラン	4人
12月11日	注意サインと対応プラン	3人
1月12日	生活空間、暮らし方について	4人
3月12日	調子が悪い時の対応プラン、クライシスプラン、クライシス後のプラン	6人

⑥高次脳機能障害支援促進事業　プログラム<高次脳機能障害関係機関連絡会>

日程	内容	実績
7月21日 （木）	内 容： 高次脳機能障害者を支える制度と支援 講　師： 守矢 亜由美 氏 （東京都心身障害者福祉ｾﾝﾀｰ 高次脳機能障害者支援担当 課長代理） 事例発表：松原 真生 氏 （地域活動支援センターつばさ）	52人
10月20日 （水）	内 容：当事者が語る高次脳機能障害 ～当事者の思いと援助職マインドを知る～ 講 師：鈴木　大介氏（文筆家）	51人
2月16日 （水）	内 容：戦略的な当事者になるためにどう主体性を立ち上げるか 講 師：鈴木　大介氏（文筆家） 長谷川　幹氏（リハビリテーション医師）	65人

⑦対面朗読者派遣事業　　登録者数 6名　派遣回数 11回

⑧発達障害者理解促進事業　プログラム〈発達障害者支援関係機関情報交換会〉

日程	内容	実績
8月 4日 （水）	内　容：発達障害のある人に寄り添う支援 ～自己肯定感･自尊感情を育む働きかけ～ 講　師：田中 哲 氏(こどもと家族のﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸやまねこ　院長)	42人
3月2日 （水）	内　容：8050世帯を支える支援 ～支援者間で本人理解を深めるには～ 講　師：田中 哲 氏(こどもと家族のﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸやまねこ　院長)	28人

⑨市民福祉講座

日程	内容	実績
4月 3日 （土）	内 容：誰もがくらしやすい社会のために 講 師：　中山 正行 氏（稲城市発達障害者支援センター）	14人
9月 4日 （土）	内 容：わかりやすい！障害年金入門 講 師：福田 康雄 氏（みなと横浜社会保険労務士事務所）	42人
11月13日 （土）	内 容：多様なケアの価値を知ろう 講 師：山口　麻衣氏（ルーテル学院大学）	17人
3月19日 （土）	内 容：ひとりにしない地域づくり～大規模災害から考える 講 師：坂田　晴弘氏（国分寺市障害者センター）、 牛田　純一氏（ボランティアセンター国分寺）、 伊澤　雄一氏（はらからの家福祉会）	25人

2　生活介護事業　　太陽

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

前年度同様、感染症拡大の状況は変わらず、２度の閉館対応もあり利用率は依然やや減少傾向にある。一方で職員の感染症対策に加え、利用者の手指消毒・マスク着用の支援を継続し、音楽プログラムや半日外出・宿泊体験など一部のプログラムや行事を再開することができた。また、生活環境の変化等により通所が困難となっている利用者に対し定期的に訪問支援を行うことにより、通所への意欲が維持されるよう働きかけている。利用率については、次年度の入所希望者はあるが定員にやや満たないことが予測されている。太陽の強みや魅力を改めて確認し、新規利用者を増やしたい。

パーティションを開放することによるレイアウトの見直しは、感染症対策も踏まえて行っている。レイアウト見直しを通じて、環境の不具合が起こった時にフロア職員で検討し解決するプロセスが定着し、利用者同士の接触による事故は徐々に減少している。

2)利用者支援

一部プログラムや行事の再開を図りつつ、個別支援について検討する時間を振り返りなどで日常的に設け、個別支援の充実を図った。また、外部よりスーパーバイザーを招いた事例検討や、医療的ケアに関する事故を受けて、外部講師を招き連続した内部研修を行うなど、事業内部での研修を充実させた。その他、外部の研修についても職員に励行し、支援力向上を図った。

(2)個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①個別支援計画の充実と支援力の向上	各利用者担当を中心とした個別支援計画作成のプロセスについて、利用者理解が深まる、利用者担当者の計画理解、支援との連動性などに向上が見られる。また、事例検討やグループワークなどを重ね、つばさの高次脳機能障害者関係機関連絡会・発達障害者支援情報交換会などへの参加も励行し、支援力の向上に結びつくよう図っている。	内部研修などは力を入れてきたが、外部研修になかなか参加できない状況にある。視野を広げるためにも法人外の人とも意見交換ができる外部研修をより活用し、支援意欲の向上につなげたい。
②医療的ケアのある方の支援の充実	呼吸器装着者の単独通所に向けた取り組みについては、時折アクシデントがあるもその都度本人や家族と手順等の擦り合わせを行い、毎週１時間程度ではあるが家族の待機場所変更という形で進捗している。また、医務と連携し外部講師を招いて医療的ケアに関する連続研修も行うなど、支援チームとしての底上げも図っている。	家族待機場所の変更について回数や時間を確実に増やしていくため、目標立てた進捗管理が必要である。 単独通所を達成するには支援員も医療的ケアを理解し携わっていく必要があるため、連続研修については今後も継続したい。 また、中期計画と連動し、痰の吸引等研修についても受講を促したい。

③個人情報をはじめとする権利擁護の取り組みの強化	部署会議や振り返り、個別支援会議や事例検討を通じて、権利擁護の意識の定着を図った。主任や課長からだけではなく、職員間でも意識した意見交換がなされるようになってきている。	個人情報の大きな事故はないが、権利擁護の視点については今後も継続して保てるよう取り組んでいきたい。

(3)利用者の状況

① 利用者の推移

新規利用者　0人	
退所利用者　3人	他事業所へ移行2人、体調不良による通所困難1人

② 年齢別利用者数（令和4年3月31日現在）　平均年齢37歳4ヶ月　（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	12	16	10	5	2	45

③ 利用者の障害支援区分（令和4年3月31日現在）　平均5.4　（単位：人）

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	6	10	28	45

④ 1日平均利用者数　平均34.7人　（単位:人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
36.3	35.2	36.3	36.4	33.4	31.4
10月	11月	12月	1月	2月	3月
36.1	36.6	36.3	35.9	31.8	31.8

※コロナウイルス陽性者が判明し、8月に6日間、9月に3日間、2月に3日間閉所している。
また、再開以降もGHをはじめとした他事業所での感染拡大や、その状況から自粛していた利用者もいたため、8・9月、2・3月の利用率は低下傾向にある。

⑤ 障害者手帳（令和4年3月31日現在）　重複あり（単位:人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
8	26	2	1	21	9	1	1	3	2	1	1	1

(4)行事等の実施状況

①行事

4月	お弁当給食	4月23日	利用者全員
10月	お弁当給食	10月21日	利用者全員
	ミニ縁日	10月27日	利用者全員
11月	まつりウィーク	11月15日～19日	利用者全員
	ランチdeコース	12月22日	利用者全員
1月	新成人を祝う会	1月14日	利用者全員
3月	納め会	3月23日	利用者全員
通年	半日外出	9月30日～12月3日	全9回　利用者26人　職員20人
通年	宿泊体験（各1泊）	10月21日～1月21	全6回　利用者13人　職員12人
新型コロナウイルス感染拡大のため、その他行事は中止した			

②その他

＊本人支給金：作業収益が低下したこともあり、今年度より3か月毎の支給とした。
（上半期報告にて4月・6月・8月に支給した、とあったが、4月・7月の誤り）
支給月は4月・7月・10月・1月。

＊実習生受入れ：小平特別支援学校3人（うち2人は2回実施）・武蔵台学園1人
社会福祉士援助実習2人

＊東経大コラボ事業：オンライン・対面両方を用いて、クラブ活動を中心に月に1～2回程度交流の機会を持った。

3　自立訓練事業　はばたき

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

①環境整備（レイアウト変更の実施）について

昨年度、コロナ感染症対策の一貫として、調理訓練、活動室内での飲食を伴う活動の制限をしていた。今年度はレイアウト変更を実施、調理スペースを確保した。調理スペースとして確保した場所を流動的に活用することで、利用者同士の距離を確保し、飲食を伴う活動を実施する等、感染症対策をしながら活動に取り組んだ。また、はばたき活動室は他の２事業の利用者の出入りがあるので、活動室内の動線を広くし、接触等の事故が発生しないように配慮した。

②外出活動等について

特に公共交通機関利用訓練、電車を利用しての遠出外出訓練、外食を伴う活動を制限していたが、今年度は電車の込み具合を見る、予約制で感染対策が整っている店を選択する等、感染対策を講じながら可能な範囲で取り組むことができた。

③新規利用者等

令和４年２月、生活訓練事業に新規利用者１名が利用開始となった。同時期に１名修了者があったので、利用者の増減は無い。

令和４年３月に新規利用者の獲得に向けたオンライン事業説明会を実施した。令和４年５月末までに振り返り、内容や改善点等を検証する。令和４年度の周知活動に活かす。

2)利用者支援

外出、調理等、感染症対策を意識しながら取り組んだ結果、利用者の感染症対策の意識向上が見られた。例えば、テーブルの消毒等、これまで声掛が必要であったが、下半期に入ってからは、自発的に消毒作業を行う、お店等入退店前の消毒をするようになっている。また、可能な限り外出活動等に取り組んだ結果、「〇〇に行けたことが嬉しかった」「〇〇が食べられて良かった」等の反応があり、それぞれの支援者が外出活動の重要性を改めて感じた。

3)OJT の実施状況

今年度は行動指針の「利用者本位のサービスの実現」を深めることを重点的に取り組んでいる。利用者に対する姿勢、サービス提供にあたっての部分を理解し、実際の支援で実践できるよう繰り返し話をしている。その結果、活動や支援に対して指示待ち受け身であった時短、非常勤の職員が、活動内容を考える、踏み込んだ利用者支援に取り組む等の変化がある。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①利用者の確保と利用率の向上	令和３年度は生活訓練事業６名、機能訓練事業４名の利用者を維持したかったが、機能訓練では１名が逝去、生活訓練では見学や問い合わせはあったが、週５日通えない等の理由から２名の方が利用につながらなかった。結果として機能・生活訓練とも定員に達することはできなかった。	令和４年３月にオンライン事業説明会を実施する予定である。その結果を踏まえて、状況を分析のうけ、必要な対応を講じていく必要がある。

②相談支援事業所との連携	今年度修了者に関して、地域活動支援センター つばさとも連携をとり、はばたき修了後も相談、プログラムの利用等に繋げることができている。	自立訓練事業は生活に即したサービスの提供が可能な事業である。入所施設、病院を退所、退院した方、中途障害者、引きこもり等の地域生活への移行を図る上で相談支援事業所等との連携は必要不可欠である。連携の方法、強化等について今後も検討が必要である。
③事業形態の見直し	現在利用されている方、今年度利用の問い合わせがあった方等、「週５日通いたい」という声があった。また、支援上のことでは、現在、機能訓練を週２日利用している方が、就労を目指す際に「週３～４日の就労に即した生活リズム及び体力作りの構築」をしていくことが難しいと感じている。	中期計画でも触れているが、機能訓練と生活訓練を一体化した事業運営の実現のため、計画的に取り組んでいく。

(3)　利用者の状況

生活訓練、機能訓練ともに修了者・新規受け入れがあった。令和３年度もコロナ禍で事業所見学の制限やセンター休館等があったが、他事業所と連携を図りつつ利用に繋げている。修了退所者は４名で、ＧＨ入居支援、悪性腫瘍ステージⅣの方の生活介護事業への移行、就労を諦めていた方のＢ型事業所への移行等、単に一事業所へ移行という面だけでなく、その方の将来像を関係機関と共有し、生活全般のサービス利用等を整えて移行することができた。既存の利用者では、単に活動を制限せず、活動室のレイアウト変更、感染予防対策を講じながら、可能な範囲で活動に取り組むことで、外出や外食ができることの喜び、他者と関わり、様々な人とつながることの充実感等、活動を通して利用者から得ることができた。今後の活動に活かしていきたい。

① 利用者の推移

生活訓練：

新規利用者　１人	◆介護保険の通所サービスを利用していたが、さらなる改善等を目的として生活訓練の利用となった。
修了退所利用者３人	◆機能訓練を経て生活訓練を利用してＢ型事業所へ移行した。 ◆生活訓練を２年利用。ＧＨに入居、精神系生活介護の利用等をしながら地域生活を継続している。 ◆生活訓練を３年利用。Ｂ型事業所へ移行した。

機能訓練：

新規利用者１人	◆進行性難病、身体機能維持、向上を目指す。
修了退所利用者１人	◆機能訓練２年半の利用、Ｂ型事業所へ移行した。

② 年齢別利用者数（令和４年３月 31 日現在）※重複あり

生活訓練：平均年齢　　40.2 歳　　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
0	2	0	1	2	0	5

機能訓練：平均年齢　44.6歳　（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	1	0	0	1	1	3

③ 利用者の障害支援区分（令和4年3月31日現在）

生活訓練：　（単位：人）

非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	1	1	2	0	0	5
介護保険対象者		要支援2：1人					

機能訓練：　（単位：人）

非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	0	1	1	0	0	3
介護保険対象者		要支援2：1人					

④ 障害者手帳　（令和4年3月31日現在）※重複あり

生活訓練：　（単位:人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0

機能訓練：　単位:人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0

⑤ 1日平均利用者数

生活訓練：　定員6人　平均　4.8人　（単位:人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月
5.4	4.5	5.5	4.4	4.2	4.3	5.5	5.1	4.6	4.4	4.9	4.5

機能訓練：　定員6人　平均　3.1人　（単位:人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月
3.0	3.0	3.2	3.3	3.5	3.0	3.8	3.9	3.0	2.6	2.3	2.8

⑥ 行事

4月	新型コロナウイルス感染拡大のため、行事は未実施		
5月			
6月			
7月	新型コロナウイルス感染拡大のため、行事は未実施		
8月			
9月			
10月	合同ミニ縁日	10月27日	太陽・はばたき（生活）

11月	はばたけサンサン夢まつり	11月15日～19日	利用者全員、この里利用者
	一日外出（府中美術館）	11月12日・25日	生活訓練、機能訓練
12月	ランチdeコース(旧ランチでビュッフェ)及びプレゼント交換	12月22日	生活訓練
	クリスマス会	12月24日	生活訓練
	クリスマス会	12月28日	機能訓練
1月	新型コロナウイルス感染拡大のため、行事は未実施		
2月			
3月			

⑦その他

＊外出訓練

：買い物訓練…にしこくマイン、サミット、コーナン、しまむら、ららぽーと立飛、卸売りセンター、国分寺駅ビル、立川駅ビル、うかい亭

交通訓練……国分寺駅、府中駅、吉祥寺駅、武蔵小金井駅、立川駅、（それぞれ電車、バスを利用している）

＊施設見学等

：・ちえホーム（就B）・さつき共同作業所（就B）・ともしび工房（就B）
・オハナ農園（就B）・にこにこファクトリー（就B）・プラスワン（就B）
・ワークスペースひなた（就B）・リカバリーセンター転・ボランティアセンター
・むうぷ舎中原（就B）　・むうぷ舎新川（就B）　・食茶房むうぷ（就B）
・集いの家第二福祉作業所　・ぷらっつ（地活）　・ココルポート（自立）
・あい（就B）　・調布ドリーム（就B）　・レジリエンス（移行）　・国リハ
・東京都障害者職業能力開発校　・立川職業センター

※宿泊訓練はコロナウイルス感染予防拡大防止の為、中止となった。

4 就労継続支援B型　　どーむ

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の発令により、喫茶に関しては事業形態を検討しながらテイクアウトの弁当販売を行っている。

スイーツでは、9 月に消費期限を誤表記した菓子を販売する事案が発生した。翌日から 2 週間営業を中止し、その間に事故分析を行うとともに、再発防止策を検討し、利用者・職員と共に周知徹底を図った。その他 HACCP※に関しては、利用者を含めて適切に対応している。

昨年同様、販売イベント等は中止となり、お仕事ネットワークでの共同受注を積極的に受託し、工賃の維持に努めた。

今後、喫茶・スイーツ・清掃の事業について、1 週間の作業スケジュール、各作業の利用者の配置について検討し、3 つの作業を継続するための運営方法を検討する。

※2：HACCP…Hazard Analysis Critical Control Point の略。食品事業者自らが食中毒汚染や汚物混入等の危害要因(ハザード)を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全行程の中で、それらの危険要因を除去または低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法。厚労省により、20 年の 6 月までの導入が義務付けられている。

2）利用者支援

不調の訴えがある利用者に関しては、他部署や他機関と共有し、その都度話を聞き、気持ちの安定を図り、継続的な通所に繋がるような支援を行った。また 10 月に利用者一人が就労移行支援事業所に移行した。どーむとして、今後も計画相談担当などと協力しながら、利用者の次の移行先に向けた就労移行支援を行っていく。

3)OJT の実施状況

部署会議内で活発な意見交換が行われているが、OJT という観点での取組が乏しい状況だった。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①喫茶部門	日替わり弁当を毎日 20 食前後販売しており、安定した売り上げを維持できるようになった。 利用者に向けた食品衛生に関する研修を行い、意識の向上を図った。	事業運営に関して、近隣住民が定期的に弁当を買いに来ており、テイクアウトが定着している。コロナ禍において安全に運営を行うということを考慮し、テイクアウトの形式を行っていくのか喫茶（イートイン）の形態に戻すのか、引き続き検討が必要。
②スイーツ部門	販売イベントは中止になることが多かったが、中止にならなかったイベントにはできる限り参加している。また、今年度は東経大の販売を 11 月と 1 月に行っている。 また、東経大にある生協へ委託販売（常設	東経大にある生協への常設販売は行っているが、新たな常設販売の場を探し、販路拡大に継続して取り組むことで定期的な売り上げを確保し、利用者の工賃維持に努めていくようにする。

	販売）を2回行った。 12月、お仕事ネットワークとしてセレオでの販売会に参加し、そこで購入した方から大口の注文が入った。	
③清掃部門	今年度より公園トイレ（3か所）の清掃を受注している。 清掃業務に携わる利用者の増加については、実習を随時行っているが、清掃に従事する利用者は増えていない。	現在、工賃はどの作業も同じ時給になっているが、清掃に携わる利用者の増加や意欲の向上につながるような工賃の算定方法を検討していく。
④共同受注	可能な範囲で受けており、収入増につながっている。	本来の業務である喫茶・スイーツ・清掃を行った上で、可能な範囲で共同受注を受けていく。
⑤就労支援会計の増収と利用者工賃の見直し	工賃額に関して昨年度と同額の工賃を維持し、支給している。 毎月運営会議を実施し、現状について報告共有している。	清掃作業に従事する利用者の増加や意欲の向上につながるよう、適切な支払いを考えていく。

(3) 利用者の状況

今年度は就労移行支援事業所へ1名が年度途中で移行し退所した。また、精神的な不調で休む利用者がいる。平日の利用は多いが土曜日の利用が少なく、昨年度に比べると利用率はやや減少した。精神的な不調から定期的な通所が難しい利用者が数名いるが、計画相談や他機関と連携を取りながら支援している。

コロナ禍においても可能な限り、次の移行先への見学に同行したが、利用までに至らなかった利用者が1名いた。

① 利用者の推移

新規利用者　0人	
退所利用者　1人	就労移行支援事業所に移行

② 年齢別利用者数（令和4年3月31日現在）　平均年齢　42.8歳　（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	3	2	5	7	0	17

③ 利用者の障害支援区分（令和4年3月31日現在）　（単位：人）

非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	1	5	6	1	0	0	17

④ 障害者手帳　（令和4年3月31日現在）　重複あり（単位:人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
0	0	5	2	1	1	0	1	1	1	0	10	0

⑤　1日平均利用者数　　平均　7.7人　　（単位:人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月
8.4	8.0	8.4	7.7	8.0	7.9	7.8	8.0	7.3	7.2	7.2	6.8

(4) 活動内容

①　基本活動

＊喫茶：調理、接客、配膳、軽作業
＊スイーツ：焼き菓子製造、販売(店舗、イベント)
＊清掃：市庁舎清掃、駐車場清掃、公園トイレ清掃
＊その他：ポスティング※新型コロナウイルス感染拡大防止への対応で休業した喫茶業務の代わりとして行っていたが、喫茶の業務に比重を置き5月で中止している

②　行事

4月	開所式	4月1日	利用者1人　職員1人
7月	東経大受注販売	7月16日	職員2人
11月	東経大受注販売 まつりウィーク	11月9日 11月15日～19日	職員2名
12月	冬のSweets&Hand Made Fair (セレオ国分寺) 多摩川競艇販売 手洗い研修・接遇研修 ボッチャ大会(余暇活動)	12月3・4・5日 12月17・18日 12月27日 12月27日	利用者1人　職員2人（各日） 17日（利用者1人　職員1人） 18日（職員2人） 利用者10人　職員4人 利用者8人　職員5人
1月	東経大受注販売 東経大生協常設販売	1月13日	職員1人　東経大学生どーむ班
3月	冬のSweets&Hand Made Fair (国分寺丸井)	3月12・13日	職員2人（各日）

③その他

＊利用者会議　　：今年度実施せず。
＊実習生受入れ　：武蔵台学園高等部2年生1人、武蔵台学園高等部3年生1人
＊地域交流　　：昨年度よりは少なかったが可能な限り販売イベントに参加している。
＊東経大コラボ事業　：6月に工房見学を行った。また定期的に受注販売を行い、大学構内にある生協の常設販売を行った。

5 短期入所・日中一時支援　　えんじゅ

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様短期入所事業及び日中一時支援事業の同一時間帯での利用者数を1名で実施した。その後市とも確認を行い安全面に配慮し、11月から日中一時支援について、土日に限り2名の利用者受入れを行っている。今年度目標であった132h/月を達成している。

短期入所に関しては、1名利用を継続していることや、コロナ関連でのキャンセルが年間40件あり、利用率に大きな影響があった。介護人の休業補償のため、キャンセル料金の改定を行った。最低賃金改定による時給の変更と、介護人の有給取得の制度を整え、働く方の権利を守り安心して働ける環境を整えた。

2)利用者支援

医療的ケア者（児）の利用の場合は、特定の介護人のみが対応するケースが続いており、コーディネーターが対応するケースが増えている。また男女介護人の新規採用が無く、介護人の高齢化も課題となっている。介護人のスキルアップのためには研修とともに、現現場実習も必要である。今後法人内他部署での実習などでの現場実習を企画し、介護人との面談などを通じてスキルアップを図っていきたい。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①利用率の維持・向上及び安定した事業運営	日中一時支援事業は11月より土日に限り、同一時間帯2名利用を再開している。利用希望が重なる休日のご利用に関して、2部屋の居室で個々に過ごせる方や食事時間をずらして密を避ける対策を行い安全を意識して行っている。	土日の利用に関して、障害者センター内の多目的室などの使用を関係部署と検討する。
②介護人の支援力向上	3月、eラーニングを活用した介護人会議を2回行った。介護人会議の中で、介護人同士で支援を行っている中での困りごと等を共有しアドバイスを出し合う等を行った。	介護人の支援力向上のため、定期的に研修を行っていく必要がある。介護人の必要数を確保し安定的に運用できるよう、介護人を確保する。介護人の確保は計画を立て、配布先の見直しも行う。
③医療的ケア者(児)、緊急入所保護事業の安定的な受け入れ	コロナウイルス感染拡大のため、利用を控えるケースも見られたが、短期入所ではほぼ定期的に1～2名の利用が継続された。緊急入所保護事業は、今年度2名の受入れを行った。	医療的ケアに特化した事業所が市内にもでき、利用者の増員は無かった。看護師の協力が必須のため、受け入れ時に看護師の予定確認が必要。また、土日祝は看護師不在のため、その間の受け入れ時の体調急変に対応できるよう、関係各所との連携を深めた体制を整える。

(3)令和３年度　月別利用状況表

○日中一時支援事業　　単位：時間

	知的	児童	身体	精神	難病	合計
4月	28	44	21	0	0	93
5月	24	50	51	1	0	126
6月	28	32	25	0	0	85
7月	97	31	46	0	0	174
8月	40	88	30	0	0	158
9月	41	65	35	0	0	141
10月	29	44	37	0	0	110
11月	37	57	37	0	0	131
12月	45	99	45	0	0	189
1月	7	82	32	0	0	121
2月	44	64	18	0	0	126
3月	84	121	38	0	0	243
合計	***504***	***795***	***415***	***1***	***0***	***1697***

○短期入所事業　　単位：日数

	知的	児童	身体	精神	難病	合計
4月	31	4	14	0	0	49
5月	32	4	17	2	0	55
6月	35	2	23	0	0	60
7月	49	6	22	0	0	77
8月	28	6	14	0	0	48
9月	21	2	23	0	0	46
10月	32	2	16	2	0	52
11月	33	6	19	0	0	58
12月	34	12	12	0	0	58
1月	20	13	10	0	0	43
2月	19	4	8	4	0	35
3月	29	8	12	2	0	51
合計	***363***	***69***	***190***	***10***	***0***	***632***

○医療的ケアのある方の利用件数（日中・短期）

	人数	日数	時間数	人数	日数
4月	1	1	7	2	4
5月	1	1	5	2	4
6月	0	0	0	2	4
7月	0	0	0	1	2
8月	2	2	10	1	2
9月	0	0	0	2	4
10月	0	0	0	2	4
11月	0	0	0	2	4
12月	0	0	0	1	2
1月	1	1	4	2	4
2月	0	0	0	1	2
3月	0	0	0	1	2
合計	***5***	***5***	***26***	***19***	***38***

○緊急入所保護事業

	人数	日数
4月	0	0
5月	1	4
6月	0	0
7月	1	2
8月	0	0
9月	0	0
10月	0	0
11月	0	0
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	2	6

6 保健衛生

(1) 事業全体を振り返って

1)事業運営

①令和３年２月に発生した呼吸器装着者の呼吸器抜去の事故を受け、再発防止のための取組として、呼吸器管理や医療的ケア・緊急時の対応に関する研修を看護師全体で受講し、必要とされる看護技術や知識の維持・更新に努めた。同時に、外部講師の研修を実施し、支援職員と看護師間で医療的ニーズの高い利用者の支援に関する学びの場を設け、連携の強化を図った。

また、人工呼吸器装着者に同行している家族の負担軽減に対する支援について、事故再発防止の取組を継続しつつ、状況を見ながら、待機場所変更を段階的に実施した。

障害の重度化・高齢化に伴う身体機能低下がみられる利用者に対して、医療機関や専門職と連携を図り、現状の把握や正しい知識や技術の習得に努め、看護師と職員間で共有・連携を図った。

②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、引き続き情報収集に努め、入館する利用者や、職員の体調管理を行った。また、利用者や職員に対し、集団免疫の確保や重症化予防のため、嘱託医や医療機関と連携を図り、集団でのコロナワクチン予防接種実施のサポートに努めた。

法人内で陽性者が発生した際には、情報収集を行い、必要に応じてＰＣＲ検査の実施や、必要物品の確保、対応方法などの情報共有を行い、感染拡大防止に努めた。

センターや、KOCO ジャム、グループホームにおいて安定した感染予防対策として、消毒液や手袋などの衛生用品の確保や正しい活用方法の共有を継続して取り組んだ。

今後も感染症拡大防止対策として、状況に合わせて情報収集を行い、職員には正しい知識の共有を図る。また安定的に衛生管理が実施できるように、衛生用品の確保や管理を継続していく。

2) 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	目標に対する到達状況	課題
①医療的ケアの必要な方の支援の充実	・日中一時支援、短期入所においては、医療的ケアが必要な利用者の安全なケア実施や、安定した利用を可能とした対応に努めた。 ・呼吸器抜去の事故を受け、看護師全体で研修受講等に取り組み、再発防止に努めながら、呼吸器装着者の単独通所を目標として、同行家族の一定時間の待機場所変更を、段階的に実施した。 ・支援職員のたんの吸引研修は、実地研修に向けての準備として、基本研修のみの受講となった。	今後については、医療的ケアが必要な利用者が、安定して利用が可能になるような体制の整備を図る必要がある。 看護師や職員で、呼吸器について必要な知識を習得し、呼吸器装着者への理解を深め、単独通所の実現を目指し、連携の強化を図る。 研修を計画的に実施していくと共に、研修にて得た知識や技術を現場で活用し、維持できる環境を整備する必要がある。
②利用者や職員の健康管理	・健康管理の一環として、生活介護事業の利用者の健康診断については、コロナ感染症の影響で昨年度に続き、多摩立川保健所の受託検診が中止となり、情報収集手段の方法を検討した。	情報収集の手段が、利用者により個別性があるため、マニュアルの見直し・作成を行い、状況に合わせて計画的に実施していく。

	市の保健事業や、医師会で実施している健康診断や、状況に応じて主治医や他の医療機関を活用し、健康把握に努めた。 ・職員の健康診断のアフターフォローを嘱託医と連携を図り実施した。 ・腰痛予防としてのリフトの有効活用する支援の習慣化を継続して行った。また、腰痛健康診断問診票により、腰痛に関する情報収集を行い、把握に努めた。	定期的に研修を行うなど、安全なリフト有効活用の継続を図る。
③看護師の計画的な人材育成	・オンライン講義での全体研修、会議やグループワークに参加し、法人職員として必要な知識や情報の共有に努めた。 ・医務研修は、感染症拡大の状況を見ながらの開催となり定期的な実施が出来なかった。状況を見ながら外部講師による研修や、外部研修への参加、オンライン講義の受講により、必要とされる技術の維持や更新を全体で図った。	外部研修も活用し、必要な知識や技術の獲得を図り、看護師としてスキルアップを目指す。 医務研修は、感染対策を図りながら、定期的に実施していく。

(2)事業内容

1) 生活介護事業 太陽

①健康診断：毎月第1・第3金曜日　計19回実施（令和4年2月はコロナ陽性者発生で閉館期間があり、第1週は中止）
②定期健康診断：年1回　（嘱託医1回・市の保健事業や医師会健診も活用した）
③健康相談：必要時に対応（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い医療機関を紹介した）
④歯科健診：年1回(6/25)
⑥ブラッシング指導：月に1回　計12回
⑦感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
⑧細菌検査年2回（全員異常なし）
⑨受診同行1回・在宅支援3回・家庭訪問1回・緊急時対応2回
⑩医療的ケア対応（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・浣腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携
⑪毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗
⑫主治医・地域医療機関との連携、
⑬リハビリ会議・PT/OTとの連携・福祉用具の作成や導入の支援
⑮摂食支援：摂食会議・多摩クリニック受診勧奨・往診対応7回

2) 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

①必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談
②随時・定期健診の受診勧奨
③細菌検査（年2回）全員異常なし
④ブラッシング指導

3)　地域活動支援センターつばさ

①細菌検査（年２回）全員異常なし
②外傷処置・体調不良者の対応
③健康相談・病院紹介・電話相談(随時)

4)　短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

①利用者の把握と体調不良時・急病･外傷などの対応、健康相談
②救急セットの管理、衛生管理
③痰の吸引・経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応。

5)　就労継続支援事業Ｂ型　どーむ

①毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）
②毎月の体重測定と健康相談
③感染対策：手洗い研修１回
④随時：健康相談・栄養相談

6)　生活介護事業この里

①健康診断：毎月１回　計 12 回
②定期健康診断：年１回　（市の保健事業を活用した）
③健康相談：必要時に対応
④感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施・手洗い研修１回
⑤細菌検査年２回（全員異常なし）
⑥随時：健康相談・栄養相談・ブラッシング指導

7)　共同生活介護事業・ケアホームひかり・ケアホームこの葉

①　利用者の健康管理・緊急時の対応・通院同行・入院時の対応・健康相談・感染症対策
②　衛生管理・手洗い研修・汚物処理研修・スタッフ会議への出席・家族との連携
③　排泄管理（浣腸挿肛）の指導

8)　居宅介護事業ウィング

①利用者・ヘルパーの健康相談，情報提供（感染対策）

9)　職員

①健康診断　年１回（深夜業従事者　年２回）
②細菌検査　年２回（5 月：全員異常なし　1 月：全員異常なし）
③緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など
④手洗い研修・汚物処理研修

10)　要医療的ケア者の受け入れ状況

①通所：経管栄養（6）たんの吸引（6）吸入（1）呼吸器（3）褥瘡処置（1）
　(ア)日中一時：経管栄養（4）たんの吸引（1）
　(イ)短期入所：経管栄養（1）たんの吸引（1）夜間不要
④医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問・研修受講など

11) 研修

①　医務ミニ研修実施　２回（外部講師による）
②　医療的ケアに関する研修参加（オンライン）　１回：看護師全体
③　医療的ケア指導者講習参加（外部）　４名

Ⅲ　KOCO・ジャム事業部門

1 事業全体を振り返って

(1)事業運営

今年度も新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言等が発出されている状況が続いた。その時々の状況の変化に対応しつつ、感染防止対策を徹底してきた。そのような状況下にあっても、利用者の活動や生活の幅が拡がるような取組を実施した。

2月にグループホーム利用者複数名の陽性が判明し、利用者や職員の濃厚接触も判明したが、ご家族の協力や法人全体で隔離等の対応を行った。利用者・職員ともに感染防止に向けた意識を改めて確認し、消毒等の基本的な感染防止対策の徹底の他、利用者のマスク着用練習等を実施してきた。3月には利用者ほぼ全員が3回目のワクチン接種を終えている。利用者が安心・安全に利用できるよう、また職員が安心して働くことができるよう、社会情勢に留意し、安定した事業運営となるよう、取り組んだ一年であった。引き続き、ウイルスの変異や感染状況を適切に把握し、地域に出て行く機会を増やし、地域社会の中での事業運営について、新たな視点や発想を持って取り組んでいく必要がある。

(2)利用者支援

利用者支援においては、個別の利用者ニーズやそれぞれの課題に対して、具体的な対応を検討し、一人ひとりのニーズに応じてステップアップしていける支援となるよう取り組んできた。日常のコミュニケーションを基に、定例の会議以外にも職員間で協議する時間を多く取り、ミニ研修等も実施した。グループホームでは世話人会議が定例化し、議論の機会が設けられた。短期入所事業では、利用者の受け入れに向けたアセスメントや要綱、体験プログラム等をテーマに実践研究・実践報告に取り組んだ。また、「万葉の里で働くあなたへ」の活用による法人の考え方の共有や、関係機関とのカンファレンス、コンサルテーションの活用等、様々な方法で利用者情報の共有や支援に対する理解を深める機会を持ち、支援力の向上に取り組んだ。コロナ禍の状況を踏まえ、利用者の健康把握については特に重視し、ご家族との連携、嘱託医の定期健診や訪問診療の活用により丁寧な対応ができるように配慮をした。利用者においては、コロナ禍の生活に慣れてきている部分もあるが、不安を覗かせる利用者もおり、気持ちに寄り添う支援を心掛け、一緒に解決方法を考えていけるよう取り組んだ。

2 個別事業の進捗状況と課題

(1)新たな生活様式に基づいた運営の土台を築き、安定した運営体制の整備

感染防止対策が前提の中で様々な制限や自粛はあるが、その状況に即した活動や生活が定着してきており、利用者のニーズに応じた地域生活となるよう工夫や検討を行った。KOCO・ジャム開設より4年が経過し、コロナ禍はありつつも、安定した支援の提供と事業運営体制の土台の構築が進んできている。

(2)風通しの良い組織作りと人材育成・人材の確保と適正な職員配置

①各事業において、定期的に課長面談を実施し、各事業の取組やキャリアパスに基づく職員個別の目標や役割について、進捗状況の確認や必要な見直しに取り組んだ。主任や副主任については、前年度から継続した育成の取組を実施しており、相互理解や報告・連絡・相談の強化が

図られてきた。グループホームでは、契約職員への計画的なOJTを実施し、支援や利用者理解について深める取組となった。また、非常勤職員においては、日常のコミュニケーションを大切にし、上司に相談しやすい関係作りや職員同士が意見を言い合える環境の整備等、風通しの良い組織作りに職員全体で取り組んでいる。

②グループホームの職員体制については、概ね必要な職員配置ができており、シフトも安定してきた。しかし、祝日や休暇との兼ね合いや扶養控除の関係等で、職員配置が難しい月もあり、引き続き職員の確保が必要である。また、今年度は例年以上に、KOCO・ジャム全体で事業を超えて職員が相互に協力し合える体制の整備に取り組んだ。安定した支援環境の確保とともに、それぞれの職員がお互いの事業を知り、様々な利用者と関わることで、支援力を高める取り組みに繋がっている。

③居宅介護事業ウイングのヘルパーについては、年間を通して支援数が伸びなかったこともあり、現状の支援状況に対して不足はしてない。しかし、次年度はコーディネーター2名体制となり、利用者数や支援時間の増加を図っていく必要があり、これまで以上にヘルパー確保に力を入れて取り組む必要がある。ヘルパー養成校との協力関係を深め、移動支援連絡会も活用し、ヘルパーの養成と募集を強化していく。

(3)利用者の確保による利用率の向上と事業運営の安定

①生活介護事業この里は、年間を通し4人の新規利用があったが、1人が利用終了となった。特別支援学校や相談支援事業所への働き掛けを実施し、見学や実習の希望はコロナ禍の状況を考慮しつつ、可能な範囲で受け入れを行った。市外利用者の募集について、5月の理事会において送迎可能な範囲で募集を開始することを確認したが、今年度においては利用までには繋がらなかった。作業活動では、お仕事ネットを通じた新たな受注作業等もあったが、コロナ禍の影響で受注が減った作業もあり、今後の作業内容について検討の余地がある。余暇活動では、感染防止対策を図って活動の幅を拡げており、地域に出て行く活動も少しずつ増やしている。

②ケアホームこの葉みらいユニットについて、12月に新規利用者が決定し満床となった。一方で、コロナ禍の影響で感染を恐れて自宅で過ごすことを選ばれる方や、コロナ禍の中で入居され、ホームでの生活がまだ定着化していない方もいた。感染防止対策を強化して、安心してホームで過ごしていただけるよう環境整備に取り組み、利用率の向上を図った。ケアホームひかりにおいては、高齢利用者の支援についてご家族や関係機関と協議を行ってきたが、12月に高齢者施設へ移行となった。利用者の高齢化に対する支援については、次年度からの「5ケ年計画」において課題として捉えており、具体的な検討を始める予定である。短期入所事業においては、「体験の機会・体験の場」として3人の利用があり、1人は他法人のグループホーム利用が決まり、1人はみらいユニット入居となった。残る1人も新年度にケアホームひかりに入居予定である。なお、今年度は実践研究・実践報告として、情報を把握していない利用者のアセスメント方法について取り組み、発表をした。継続して取り組み、次年度は受け入れ要綱や体験プログラムの検討を進めていく。

③居宅介護事業ウイングにおいては、コーディネーター1人での運営となった。利用状況の改善や利用時間の増加に取り組んだが、前年度と比較して全体的に時間数が下回った。次年度はコーディネート2人体制となるため、ヘルパーの獲得に努め、支援数及び時間数の増加を図っていく必要がある。

3 人材育成

課長面談は各課とも5月、10月、3月に実施し、目標管理シートや事業計画、5ヵ年計画について共有や進捗状況の確認を行った。また、キャリパス制度に則り、組織における個々の役割等を確認し、個別育成シートの作成を通して、各職員が事業運営に関わっている意識を持てるように、チームとして取り組む土台を構築した。事業によっては定期の面談に加え、個別の面談も多く持ち、タイムリーにじっくりと話す機会を設定した。特に、主任や副主任については、主任としての心構えや役割、業務など、主任としての取組を一緒に考え、確認しながら育成に取り組んだ。管理職と主任で共有した内容を踏まえ、契約職員や非常勤職員、ヘルパーのOJTに反映をした。一方で、管理職が2名体制の中で面談日程の設定などの調整が難しく、効率的な取組を考える必要がある。

研修については、各職員の職層に応じたオンライン研修に積極的に参加したが、育成に沿った研修計画の立案や実施については、取り組みが不十分であった。

1　生活介護事業この里

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

新規利用者確保については、目標にしていた4名を確保できたが、9月末で1名の利用終結があり、登録者数15名で終了となった。

特別支援学校からの実習受け入れは、3年生、2年生共に、例年通り受け入れを行ったが、来年度からの新卒者確保には繋がらなかった。また、国分寺市以外の特別支援学校からの実習の受け入れを検討していたが、まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言により、実施することが出来なかった。

今後、安定した利用率を確保していくとともに、終結者に対しては、支援の振り返りを行い、今後の支援に活かし、利用者数の安定を図る。

2)利用者支援

月2回の定例会議を継続し、職員間で支援に関して話し合う機会を持つことが出来た。また、些細な事でも、すぐに話し合えるような職員同士の関係性を築くことが出来ており、支援上の課題も前向きに取り組むことが出来ている。

ケース検討については、内部のみでの検討になっている。コンサルテーションの活用等、外部の講師を招いての、勉強会や検討会を実施することで、より支援力の向上を図りたい。

3)OJTの実施状況

定期的に課長面談を実施。目標管理シートや事業計画、5ヵ年計画を共有しながら、各職員が事業運営に関わっている意識を持ち、チームとして取り組む土台を構築した。

また、主任に対するOJTについては、事業所や法人としての事業運営を意識できるよう、こまめに意見のすり合わせを行った。『万葉の里で働くあなたへ』を活用した支援が定着していないことや、各職員の個別育成シートを管理者、課長、主任との間での共有が十分でなかったことが課題である。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①利用者確保と利用率の向上	4月新卒者1名を始め、合計4名の新規利用者を受け入れた。一方で9月末に1名の利用終了があり、登録者数は15名での終了となった。 国分寺市以外の募集に関しては、新型コロナウィルスの影響により、市外の特別支援学校等の訪問など、新しい取り組みを実施することが出来なかった。一方で見学に関しては、国分寺市以外の方も受け入れ、再来年以降の利用者確保につながる取り組みは行えた。 法人ホームページを活用した、この里の周知活動に関しては、毎月のこの里だよりの掲載は実施できたが、動画の掲載や支援についての記事掲載等、発展的な取り組みが出来なかった。	国分寺市の需要を鑑みて、国分寺市以外からの募集活動を、本格的に実施していく必要がある。その際には、受け入れ体制を考慮し、事業運営に支障をきたさない計画的な募集を行う必要がある。 主に主任が行っているこの里だよりの発行を、担当者を決める等、有事においても、実行出来る体制を作る必要がある。

②作業活動	お仕事ネットへの加入により、不定期ではあるが、一定量の作業を確保でき、幅広い作業を行うことが出来た。 また、上達したミサンガ作りを発展させ、需要を見込んで、秋頃よりマスクコード作成に取り組んだ。 買い物代行については、コロナ禍において、開始することが出来なかった。	定期的な仕事と、予測の難しい不定期な仕事を、どのように組み合わせていくかが課題である。 現状の中で、どのように新しい作業（買い物代行）を開始することが出来るか検討を深める必要がある。
③余暇活動	月１回の利用者会議にて、利用者主体で活動内容を決めた。 スイミングの再開は出来なかったが、フラダンスや機能体操、ボッチャの継続により、体を動かす機会を提供した。 個別支援計画に関連付けた活動については、調理など、状況により制限せざるを得ないものもあったが、「サンサンゆめまつり」、「ハート de フェスタ」での発表に向けて、フラダンスに取り組むことが出来た。	コロナ禍の中、個別性に主眼を置いた活動が困難であった。制限のある状況下で、集団としての活動だけではない、個別に対応できる活動の在り方を模索する必要がある。
④地域とのつながり	武蔵国分寺公園ボランティアは継続できたものの、発展した地域活動やボランティア導入は出来なかった。 一方で、市民活動フェスティバルや「ぶんさんウォーク」には参加し、地域とのつながりを維持することが出来た。	コロナ禍において、地域とのつながりを維持することが一番難しいと感じている。 常連客と利用者が、販売所以外の地域の場においても、コミュニケーション出来ている現状を、上手く発展させることが出来るよう取り組んでいく。

(3)利用者の状況

年度当初、利用契約者数 12 名で開始し、4 月に新卒者 1 名を含め 2 名、8 月に各 1 名、2 月に 1 名の受け入れを行った。9 月には退所者 1 名があり、年度末の契約者数は 15 名となっている。

15 名の利用者のうち、14 名は週 5 日の利用、1 名は週 3 日の利用を継続しているものの、利用日数が減少しており、お休みが多くなっている。

① 利用者の推移（令和 4 年 3 月 31 日現在）

新規利用者 4 名	新卒者 1 名、法人内から 2 名、他法人事業所から 1 名

② 年齢別利用者数（令和 4 年 3 月 31 日現在）　平均年齢 35.6 歳　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
1	4	5	4	0	1	15

③ 利用者の障害程度区分（令和 4 年 3 月 31 日現在）　平均 4.6　（単位：人）

区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	6	8	1	15

④　1日平均利用者数　　平均 12.8　　（単位:人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
12.5	12.3	13.1	13.2	13.5	13.1	11.6	12.4	12.9	12.7	13.6	12.3

⑤　障害手帳（令和4年3月31日現在）　　重複あり（単位:人）

愛の手帳				精神保健福祉手帳			身体障害手帳					
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	1級	2級	3級	4級	5級	6級
	8	4	1	2	1		2		1			

(4)活動状況

①　活動時間　※新型コロナウィルス感染拡大の影響により、時間割を変更。

1日の流れ　※（ ）内は月・金、状況に応じ、グループ別に午前午後に分けて実施。

8：15	送迎開始①	13：00	作業　3コマ（余暇活動）
8：30	職員朝礼	14：00	休憩
8：35	送迎開始②	14：15	作業　4コマ（余暇活動）
9：00	利用者受け入れ	14：45	片付け・掃除・降所準備
9：45	朝礼・体操	15：20	終礼
10：00	作業　1コマ	15：30	送迎開始・降所
11：00	休憩	15：30	清掃・消毒
11：15	作業　2コマ		記録整理・職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ
11：45	午前作業終了		翌日準備
12：00	昼食・昼休み	17：30	職員退勤

②　一週間の主なプログラム

	月	火	水	木	金
1コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ/野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ/野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
2コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
3コマ	運動等/音楽/ ボッチャ （週替わりで実施）	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	フラダンス/ 話し合い/創作等 （週替わりで実施）
4コマ	運動等/音楽 /ボッチャ （週替わりで実施）	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	フラダンス/ 話し合い/創作等 （週替わりで実施）

※武蔵国分寺公園ボランティアは、月2回（第2・第4）

※障害者センターでの販売は、毎週木曜日に実施。

※上記の作業に加え、月２回リビング折り・配布、不定期でのお仕事ネットの作業
また、時期により法人広報紙封入作業、ニューズレター配架作業が入る。

③　行事

4 月	入所式	4 月 1 日	ご利用者 12 名、職員 5 名
8 月	買い物	8 月 20 日	ご自分で好きな昼食を購入
10 月	歯ミカップ	10 月 21 日	ZOOM にて参加
11 月	サンサン夢まつり	11 月 15～19 日	ZOOM にて参加。(開会式、音楽、お仕事体験、ボッチャ大会、フラダンス、ビンゴ大会、閉会式)
	国分寺市ぶんさんウォーク	11 月 19～30 日	10 時～15 時。KOCO ジャム販売所がチェック地点として参加
12 月	多摩川競艇販売	12 月 17 日	ご利用者 2 名、職員 1 名
	クリスマス会	12 月 25 日	ご利用者 14 名、職員 5 名
	大掃除	12 月 28 日	ご利用者 13 名　職員 6 名
1 月	新年会	1 月 4 日	ご利用者 12 名　職員 6 名
3 月	Heart de Festa	3 月 5 日	コロナにより中止
	ブラッシング指導	3 月 23 日	ご利用者 15 名、職員 5 名

④　その他

＊利用者工賃：毎月 25 日支給

＊見学/実習受入れ：武蔵台学園 3 年生 2 名、2 年生 1 人、その他実習 3 人
社会福祉士実習 1 名

＊地域施設活用：武蔵国分寺公園、国分寺市障害者センター

2　共同生活援助事業　ケアホームひかり・ケアホームこの葉

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

グループホームの運営全体においては、1年を通して、まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言下に置かれ、また下半期においては、ひかり・この葉の両ホームにおいてコロナ感染者及び濃厚接触者が発生した。感染者に対して、どのように支援をしていくのかという、法人全体での取組が必要な大きな課題に直面した。感染症対策が重点課題の事業運営も2年目を迎え、感染症対策が前提の事業運営が通常となってきており、その状況下において。それぞれの目標に向けて業務の遂行に取り組むことができた。

利用率に関しては、この葉においてはみらいユニットが満床になった一方で、度重なるまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言の影響を受けて、自宅に戻られる利用者もあり、前年度からの減少した状態が続いている。また、短期入所事業の利用者確保についても、このような状況下で見通しが立てることができない状況が続いた。ひかりにおいては、安定した利用率で推移してきたが、12月に1名が退居したことを受け、利用率が下降して来ているが、3月より利用候補者が体験利用を開始している。今後利用率の向上に向けて、支援内容や職員体制の整備等、必要な見直しを行う。各利用者が安心・安全に、また有意義に過ごせるような取り組みを行い、グループホームが生活基盤となるように働きかけていく事が必要である。

職員体制については、世話人に加え、週40時間勤務の契約職員を配置し、安定した勤務体制が取れるようになってきた。しかし、女性ユニットの夜勤については、新規雇用が難しく、派遣職員を活用しての運営になっている。また、昨年度からの課題である、世話人の業務の見直しについても、対応が不十分な状況にある。

2)利用者支援

新しい生活様式に基づいた支援も定着し始め、感染防止対策の徹底や健康の維持を最優先にしつつ、利用者個々の支援に目を向け、一人ひとりのニーズに応じた取り組みを実施した。

この葉においては、みらいユニットが12月に満床となった。自立度の高い利用者のユニットとして、支援の方向性を確認しながらの運営が開始されている。

ひかりにおいては、12月に高齢利用者1名の退去があった。高齢化による体調や生活の変化により、高齢者施設への移行となった。新規の利用候補者の確保に取り組んだが、コロナ禍のため体験利用の時期に影響があった。今後、利用者の高齢化及び重度化が予想される中で、想定される利用者の再アセスメントが必要である。それに応じて、GHで可能な支援等の検討を行い、先を見据えた計画的な取組を構築していく。

3)OJTの実施状況

今年度は、ひかりは管理者が課長を兼務し、この葉では新しい課長となった。改めて、それぞれ定期の課長面談を行いながら、職員一人ひとりの把握やコミュニケーションの機会を持つことを意識してきた。特に、両ホーム合同の世話人会議を月1回開催し、グループホーム全体として協議をする機会を設け、職員育成に取り組んだ。

また、今年度は特に主任職員の育成と契約職員への指導に重点を置き、職員全体の育成については、管理職と主任が状況を共有しながら、共にOJTに取り組むことができた。昨年度に引き続き、交換ノート等も活用して、OJTに取り組んだ。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①安心・安全な生活環境の提供	感染防止対策に取り組み、ホーム内に感染を持ち込まないことを徹底した。利用者も新たな生活様式に慣れてきて、状況に対する理解も深まってきており、度重なる緊急事態宣言等や感染者の発生に対しても、大きく不安定になられる方はいなかった。また、ご家族や関係機関とも連携を取りながら、安心して生活が送れるように支援した。 訪問診療と連携し、利用者の健康管理に努めた。コロナ禍ということもあり、ご家族への働き掛けを積極的に行い、新たに利用を始めた方もいる。 誕生日会等は、ユニットごとに密にならない工夫をして実施した。	感染防止対策については継続して実施。陽性者・濃厚接触者が発生した際の対応については、より具体的な対策の検討が引き続き必要である。 日常の健康観察や体調変化時の早急な対応のため、訪問診療の利用を更に勧めていく。 コロナ禍の中でも、利用者個々の生活がより安心・安全なものになるよう、利用者に寄り添い、創意工夫した支援を実施していく。
②ケアホームひかり	高齢利用者の支援について、ご家族や関係機関と協議を重ね、生活面や支援の改善に取り組んだ。しかし、体調面の変化により GH での支援では対応が困難となり、高齢者施設への移行となった。コロナ禍の中で、各利用者に寄り添い、安心して生活ができるよう支援を行った。	利用者の高齢化については、改めてアセスメントを行い、先を見据えた支援の検討が求められている。また、空室について、3 月に利用候補者が体験利用を実施しており、年度明けには正式利用になる見通しである。
③ケアホームこの葉	いろはユニットにおいては、利用率は常に高い状態で運営できている反面、あい・みらいユニットにおいては、コロナ禍の影響を受け、帰宅される方やグループホームの生活がまだ定着していない方などで、利用率が伸びなかった。前年度と情勢が変わる中で、この葉で過ごすことを選択する利用者も増えてきている。 みらいユニットについて、12 月に残り 1 床が埋まり満床になった。徐々にみらいユニットとしての運営が、形作られてきている。	利用率の向上が課題である。この葉で安心して過ごせるための職員体制や、利用者の生活基盤となる支援の向上が必要である。また、それぞれのユニットでの課題や個々のニーズに応じた生活面の支援等が求められている。

(3) 利用者の状況

1)ケアホームひかり

① 利用者数　11 人　（ 男性　6 人　女性 5 人 ）

② 年齢別利用者数（令和 4 年 3 月 31 日現在）　平均 45.1 歳　（単位：人）

30 代	40 代	50 代	60 代	合計
2	6	2	1	11

③ 利用者の障害程度区分（令和４年３月 31 日現在）　　平均 4.1　　（単位：人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
0	4	3	2	2	11

④ 障害別利用者数（重複あり）　　（単位:人）

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	10	4	15

⑤行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	４月 15 日、21 日に実施。密を避けるため、２回に分けて実施 下半期は緊急事態宣言等により実施できず
避難訓練	４月 20 日に利用者参加により実施 下半期は緊急事態宣言等により実施できず

⑤ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月一回実施。

その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回、定期開催。	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など
個別支援会議	利用者の誕生月及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

2)ケアホームこの葉

① 利用者数　　15 人　　（　男性　９人　　女性６人　）

②年齢別利用者数（令和４年３月 31 日現在）　　平均 36.0 歳　　（単位：人）

20 代	30 代	40 代	50 代	合計
5	5	3	2	15

② 利用者の障害程度区分（令和４年３月 31 日現在）　平均 4.2　（単位：人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
3	3	2	1	6	15

④障害別利用者数（重複あり）　　（単位:人）

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	13	6	19

⑤行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	６月 25 日、７月２日に実施。密を避けるため、２回に分けて実施 下半期は緊急事態宣言等により実施できず
避難訓練	年間を通して、予定した日程が緊急事態宣言等の影響を受け実施できず

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月一回実施。

その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回定期開催。	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など

個別支援会議	利用者の誕生月及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

3　KOCO・ジャム短期入所事業

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

新型コロナウィルスの影響が続き、基盤が整わない中での年度開始となったが、男性１名、女性２名の受け入れを行った。目標としていた、年間利用日数 99 日は達成し、181 日となっている。

利用者は、昨年度に引き続き、みらいユニット候補者と法人利用者の受け入れではあったが、それぞれが違う目標を持って利用されており、支援を考える機会となった。

３名の利用者中１名は５か月間の長期利用となったが、他２名はグループホームの入居がすぐに決定し、支給範囲内の限られた日数の中での短期間利用となった。

今後は、法人外の利用希望者に対しても提供開始し、安定した稼働率につなげていく。また、KOCO・ジャム短期入所事業に対しての需要を把握し、今後の利用率の見通しをもっていく。

2)利用者支援

今年度も、みらいユニット利用候補者、及びこの里利用者という、アセスメントがしやすい状況での支援であった為、個別のニーズに即した支援に取り組むことができた。

また、5 か月間の長期利用もあり、じっくりと取り組むことで、短期入所事業としての課題も明確になった。あわせて、実践研修を通して課題に取り組み、短期入所事業の支援の構築を行った。

今後は、受け入れ要項等、事業を行う上での基盤が整えつつ、この葉ユニット内での支援となることを考慮し、限られた職員体制、環境を考えた上での運営が求められている。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①受け入れや情報共有体制の整備	いろは・あいユニットにおいて、男性１名、女性２名の受け入れを行った。3 名の利用者は、みらいユニット利用候補者とこの里利用者であり、情報共有については、比較的しやすい状況であった為、スムーズに受け入れることができた。	一般の受け入れに関しての検討が進んでいない。ある程度の実践を行うことで、課題ややるべき事が明確になるため、一般の受け入れは慎重に行うことが望ましい。
②利用者のニーズを理解した支援	法人内の利用者ということもあり、ニーズを把握した上での支援開始であったが、職員が的確にニーズを把握して、適切に支援が行うことは難しかった。職員への情報共有、目標やニーズの理解など、改善すべき点も明確になった。	ニーズや目標を把握した、適切な支援を行うための、システムが構築されていない。

(3) 利用実績

① 利用者数　3人　（ 男性1人　いろはユニット、女性2名　あいユニット ）

② 年齢別利用者数（令和4年3月31日現在）　平均33.6歳（単位：人）

20代	30代	40代	合計
1	1	1	3

③ 利用者の障害支援区分（令和4年3月31日現在）　平均3.6（単位：人）

区分3	区分4	合計
1	2	3

④ 障害別利用日数/利用実績　（単位:日）

	精神障害	知的障害	合計
4月	3	0	3
5月	6	0	6
6月	30	0	30
7月	31	4	35
8月	31	6	37
9月	29	5	34
10月	19	0	19
11月	0	3	3
12月	0	7	7
1月	0	7	7
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	149	32	181

4　居宅介護支援事業　ウィング

(1)事業全体を振り返って

1)事業運営

度重なるまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言により、年間を通して、事業運営に大きな影響があった。昨年度から引き続くコロナ禍ということで、感染防止対策を継続し、利用者やヘルパーの不安感は減少しつつある。移動系の支援については、今年度の目標時間数は達成できなかったものの、同行援護が前年比約 115%、移動支援が約 130%と、昨年度を上回る支援時間となった。

また、育児支援については、昨年度を超える時間数を目指したが、予想以上に依頼件数が少なく、低い支援数となった。

居宅介護と重度訪問介護については、コーディネーター１名の運営体制の中で、上限の支援数を維持しつつ、支援時間数の増加を目指したが、新規の依頼が少なく、入院や死亡等も重なり、上限の支援数を維持することは難かしく前年比約 85%となっている。

コーディネーター1名体制での運営のため、各職員の役割分担を明確にし、コーディネート業務に比重を置けるように、支援業務の調整を行った。しかし、ヘルパー確保が思うように進まず、コーディネーターへの支援業務の負担は重くなった。

2)利用者支援

今年度も感染防止対策が最優先となったが、継続した感染防止対策を徹底することで、利用者・ヘルパーともに過剰な不安を持つことなく、安定した状況で支援が行われた。

コーディネーターがヘルパーに同行し、支援状況の確認や支援についての助言等、ヘルパーの育成を目指したが、同行する時間の確保が難しかった。今後も障害の重度化、複雑化に対応するため、ヘルパーの支援力や技術力の向上を目指し、研修や OJT の機会を設ける必要がある。

3)OJT の実施状況

今年度から、組織体制が変更になり当初の予定どおり課長面談を行うことができた。主任に対しては、今年度からの着任となるため、主任業務の役割や業務を確認し、職員やヘルパーへの OJT について、一緒に考え取り組んだ。

来年度、職員 1 名のコーディネーター登録が可能となるため、コーディネーター2 名体制に変更予定である。そのため、下半期においてはコーディネーター登録の準備を行い、業務の引継ぎ等を計画的に行った。

定期的なヘルパー会議や研修の実施を目指したが、コロナ禍の中、実施には至らず。ヘルパーの支援力向上の取組は不十分であった。今後各職層の役割や業務を明確し、参加しやすい内容や日程の検討を行い、定期的なヘルパー会議や研修の実施的確な OJT を実施していきたい。

(2)事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
①運営体制の安定	居宅介護と重度訪問介護においては、現状の支援数の維持は図れたが、40 名の上限を達成し、維持することは難しかった。時間数の増加も難しく、平均 360 時間となっている。 移動系の事業についても、同行援護が平均 91 時間、移動支援が平均 46 時間となってお	コーディネーター2名体制になった時の、新規受け入れとヘルパーの新規確保は、同時に進行しなければならない。現状のニーズを探り、支援数とヘルパー数のバランスが取れた運営

	り、目標時間数には到達しなかった。 育児支援においては、子ども家庭支援センターとの関係を築き、前年度を上回る支援数を期待したが、新規依頼数が激減し、予想を覆して低い支援数となった。	に繋げていく必要がある。
②ヘルパーの確保と定着	有休制度の整備など、働く環境作りに取り組んだ。ヘルパーの声に耳を傾け、感染対策等、真摯に向き合うことで、信頼感を持ってもらえるように取り組んだ。　ヘルパー紹介制度やチラシの作成など、新規ヘルパー確保を行ったが、効率的に広報できず、支援数に反映できるほどの確保には至らなかった。移動支援連絡会の研修を通じて、新規ヘルパーを２名獲得した。	ヘルパーの高齢化は、継続した課題である。事業で必要とするヘルパー像を明確にし、新規ヘルパーの確保を行う必要がある。併せて、定着率の向上を図るためにも、ヘルパーの状況に合った、働きやすい環境作りを行うことも求められている。

(3)活動状況

①派遣状況

	派遣時間（時間）	利用者（人）	居宅	重訪	同行	移動		育児	エル
						知的	児童		
4月	505.00	43	20	6	8	8	0	0	1
5月	498.00	44	23	6	8	6	0	0	1
6月	569.00	47	21	6	10	9	0	0	1
7月	543.50	46	21	5	10	9	0	0	1
8月	482.00	43	23	6	7	6	0	0	1
9月	515.00	45	22	6	9	7	0	0	1
10月	533.00	49	23	6	10	9	0	0	1
11月	528.00	49	23	6	10	9	0	0	1
12月	602.00	55	23	6	11	13	1	0	1
1月	529.50	49	21	6	10	10	0	1	1
2月	476.00	47	21	6	8	10	0	1	1
3月	503.75	52	21	6	11	12	0	1	1
合計	6284.75	569	262	71	112	108	1	3	12

②サービス別派遣時間

	身体介護	家事援助	重度訪問	同行援護	知的移動	児童移動	育児支援	エル	合計
4月	33.00	93.00	226.00	90.50	46.50	0.00	0.00	16.00	505.00
5月	30.50	92.00	221.00	106.50	32.00	0.00	0.00	16.00	498.00
6月	32.00	103.00	235.00	134.00	48.50	0.00	0.00	16.50	569.00
7月	30.50	99.00	239.00	100.50	57.50	0.00	0.00	17.00	543.50

8月	32.50	107.50	229.50	59.00	38.50	0.00	0.00	15.00	482.00
9月	29.00	102.50	242.50	91.50	32.50	0.00	0.00	17.00	515.00
10月	22.00	101.00	210.00	118.00	64.00	0.00	0.00	18.00	533.00
11月	25.00	101.00	236.00	85.00	65.00	0.00	0.00	16.00	528.00
12月	22.00	90.50	258.00	127.00	81.00	4.00	0.00	19.50	602.00
1月	25.00	100.50	234.50	88.00	58.50	0.00	5.00	18.00	529.50
2月	24.00	85.00	213.00	67.00	63.00	0.00	6.00	18.00	476.00
3月	22.00	102.75	245.50	111.50	70.50	0.00	9.00	17.00	578.25
合計	327.50	1177.75	2790.00	1178.50	657.50	4.00	20.00	204.00	6359.25

③会議等の実施状況

定例会議を毎月実施。ヘルパー会議及びヘルパー向け研修会の実施については、コロナ禍の影響により実施ができていない。そのため、コーディネーターからヘルパーに積極的にコミュニケーションを図り、支援の状況等を把握するように努めた。

Ⅳ　基幹相談支援センター

1 事業全体を振り返って

①事業運営

令和３年度、基幹相談支援センターでは、感染対策に関する情報収集を行い、できることは取り入れながら事業計画に掲げた予定を中止することなく、実施することができた。令和２年度から引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を講じての事業運営となった会議や研修の開催は、主催者に委ねられているところがあり、開催方法も会場も状況に合わせて変化していった。

基幹の業務において、人と人とのつながりを大切にしてきたが、コロナ禍においてそれができない状況が生まれたことから、情報発信が地域ネットワークを作る重要な要素となった。情報を発信しやすくするために基幹のウェブサイトを法人とは別に作成することが、市との協議で決まり、令和４年度の予算化が認められた。

②利用者支援

利用者宅の訪問や面談も必要に応じて行った。その際は、東京都のガイドラインに則り感染対策と、換気、短時間での実施を心がけ、利用者と職員の健康を守る対策を講じた。

③OJT の実施状況

オンライン会議のマニュアルが、少しずつ積み重ねられる等、職員の得意とするところで力を発揮してもらうことをベースに、他の職員の知識や技術も底上げし、ある程度は誰でも対応できるように努めてきた。

また、各方面でオンライン研修が増え、職員研修として利用がしやすくなった。研修への参加の目標回数を、一職員当たり年間６回以上としていたが、全職員それ以上の研修に参加し、学びの多い１年となった。

2 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	目標に対する到達状況	課題
1. 相談支援事業所の訪問	・１/４期内に、全事業所（９事業所）との面談を状況に合わせ、訪問・来所・オンライン等で行った。 ・質問票を事前に送り、効率的に聞き取りができるようにし、市とも共有した。 ・聞き取った内容から、研修や事例勉強会のテーマ、協議会での地域課題の検討、個別のコンサルテーションに結び付けた。 ・市から、相談支援従事者初任者研修及び現任者研修の受講者に対し、相談支援体制の説明や相談支援専門員自身の更なる気づきを得るための助言について要請があり、対応した。	・令和４年度は、実態に合わせ事業名を「相談支援事業所等との面談」に変更する。 ・事業所が３事業所増えることもあり、効率化を考え、基本１事業所１回で面談を実施する。 ・相談支援従事者研修の実習を業務に組み込む。
2. コンサルテーションの実施	・予定通り９回（相談支援事業所４事業所）のコンサルテーションを実施した。 ・講師として、公認心理師・サービス事業所施設	・新規の相談支援事業所にコンサルテーションの利用について丁寧に説明する。

	長・精神科医等の専門家を招いた。 ・市との協議の上、現場の支援者が行き詰まり相談支援専門員に相談があるケースや今後福祉サービスにつながる可能性のあるケースも対象とし、グループホーム、地域活動支援センターが中心のコンサルテーションを実施した。	・国分寺市民の利用者だが、他市の相談支援専門員が行き詰っているケースや、市内の相談支援専門員が他市のケースで困っている場合についても対象とするか検討が必要となる。
3. 相談支援専門員研修の企画・運営 新任研修１回/年 ブラッシュアップ研修１回/年 勉強会２回/年	・新任研修１回、ブラッシュアップ研修３回、事例勉強会２回を行った。 ・その他、高校２年生を対象とした相談支援事業所の移行が必要な利用者の引継ぎに向けた事例検討会を２回（６ケース）開催した。今後も、相談支援事業所の移行が必要なケースは、相談支援事業所連絡会の中で検討し、令和４年度は、高校２年生から対象年齢を下げて、本人や家族にとって一番合った時期に移行を進めることになった。	・令和４年度は、新規事業所が３ヶ所増える予定である。 ・新任研修、ブラッシュアップ研修、事例勉強会、事例検討会は、相談支援事業所連絡会とあわせて行い、相談支援専門員が日程調整しやすい配慮をする。 ・研修のテーマは、年度初めに年間を通して決める。
4. 支援者向け虐待防止研修の企画・運営	・会場とオンラインのハイブリットで予定通りに開催した。毎年、同時期に開催することで、事業所の虐待防止研修として定期的に活用されるようになった。	・次年度以降も毎年 12 月に開催していく。開催方法は、事業所の職員研修として活用しやすいハイブリットで実施する。
5. ネットワーク研修の企画・運営 スキルアップ研修 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）は、YouTube でオンデマンド配信、研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉の連携）は、会場とオンラインのハイブリット、研修Ⅲ（障害児）は、オンラインで予定通り開催した。	・ネットワークをつくるという研修の目的が、コロナ禍のため達成が難しくなっている。コロナ第７波、第８波を想定し、研修内容に合わせた開催方法を柔軟に企画していく。
6. 自立支援協議会　マネジメント業務	・全体会３回、相談支援部会３回・相談支援部会主催研修１回、就労支援部会３回・精神保健福祉部会４回、相談支援事業所連絡会 12 回・障害児通所支援事業所連絡会２回、地域移行支援ワーキング・グループ 11 回に事務局として運営に携わった。	・状況に合わせて、会場とオンラインを使い分けて開催する。
7. 市との定例協議 その他連絡会等	・月１回定例協議を開催した。その他、計画相談、災害対策研修等については、機会を別に設けて検討した。 ・国分寺市地域福祉活動計画策定委員会、国分寺障害者施設担当者意見交換会、医療的ケア児支援関係者会議は、オンラインで実施され参加した。	・国分寺市地域福祉活動計画策定委員会、国分寺障害者施設担当者意見交換会、医療的ケア児支援関係者会議等、引き続き状況に合わせた参加方法で出席していく。
8. 緊急度の高いケースの把握	・相談支援専門員の訪問に市と基幹で同行し、緊急入所保護事業の説明を行い、把握した情報は市と共有した。（４件/年） ・緊急携帯は、センター長、主任、職員１名で持ち夜間、休日に対応した。	・緊急入所保護事業にはなじまない精神障害のある方の緊急時対応について、相談支援事業所連絡会で検討が始まり、今後、精神保健福祉部会等でも

	・国分寺市内の障害者団体と相談支援部会の代表として相談支援部会長と基幹が、各々が考えている緊急時について意見を聴く機会を設けた。	引き続き検討していく。

●職員育成・・課長面談の実施結果の状況

	概況と到達	課題
1. 専門性の獲得とネットワーク作り	・研修は、オンラインで参加できるようになったことが後押しとなり、一人当たり６回以上の目標を大きく上回り達成した。 ・職員が参加した研修がきっかけとなり、自立支援協議会相談支援部会主催の災害対策研修の講師を依頼することができた。 ・地域のネットワークづくりに関して、人とのつながりに力を入れてきたが、情報発信にも大きな役割があることが見えてきた。	・研修報告を書面と会議等での報告で情報共有しているが、情報を求めている人にも提供できる形を検討する。 ・基幹の業務は、情報が命であることから、データ保存や発信の仕方について環境整備を進め、業務効率とセキュリティの向上を目指す。
2. 業務の質量の変化と効率化	・コロナ禍であっても仕様書通り事業を進めるために、オンラインでの会議や研修を取り入れた。これまでと業務の質や量が変化し、対応していくためには、業務の効率化も検討が必要となった。	・これまでやってきた業務内容ややり方を整理し、効率化を図るとともに ICT 化も進めていく。
3. ヒヤリハットの提出	・30 件/月以上の目標を達成した。職員の提案により、ヒヤリの発生後は、改善策を必ず考え、実施した。 ・行動指針に当てはまらない事態が発生することもあり、事例を基幹に集積した。今年度の初旬に部門会議で行動指針の加筆、修正を提案し、改訂版を作成した。	・行動指針にない事例が発生した時は、引き続きメモを残しておき、部門会議で行動指針の加筆、修正を提案する。
4. 基幹 10 周年	・基幹イメージキャラクターをデザインし、ウェブサイト等を利用し、日本全国から愛称を募集した。申込者数 523 件、応募総数 1,002 点が寄せられ、「とわぷる」と決まった。 ・この間の万葉の里のウェブサイト訪問数は、前年比 108%増（3,449→7,176 件）、ページ閲覧数は、前年比 82%増（9,516→17,332 件）となった。基幹の閲覧数だけでなく法人全体の閲覧数を底上げした。	・基幹独自のウェブサイトを立ち上げ、法人のウェブサイトとリンクする。 ・基幹周知のためのイメージキャラクターの展開を検討し、試行する。
5. 実践研究事業	・これまで毎年実践研究に取り組んできたが、市から隔年で取り組んではどうかと提案があった。令和３年度は、「基幹設置 10 周年」周知のための取組を行うため、実践研究は次年度に参加することにした。	・令和４年度は、10 周年史を発行する。 ・基幹の周年事業の検証を実践報告とする。

3 活動実績

令和３年度 相談業務実績 （令和３年４月１日～令和４年３月31日）

相談支援件数	3,942件	相談業務内容件数	4,778件

【個別ケースに関わる相談業務】

①支援方法別件数

	訪　問	来所相談	同　行	電話等相談	電子メール	個別支援会議	その他	計
件数	161	153	2	1,199	119	27	0	1,661

②業務内容分類

	総合相談 専門相談	ﾈｯﾄﾜｰｸ 研修等	地域移行 地域定着	虐待防止 権利擁護	計
件数	1,562	77	17	5	1,661

③支援内容の内訳

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	虐待防止に関する支援	地域移行・地域定着に関する支援	その他	計
件数	1,444	114	321	109	23	247	53	36	26	2	22	25	50	1	2,473

【地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務】

①支援方法別件数

	訪　問	来所相談	電話等相談	電子メール	その他	計
件数	151	149	978	988	15	2,281

②業務内容分類

	総合相談 専門相談	ﾈｯﾄﾜｰｸ 研修等	地域移行 地域定着	虐待防止 権利擁護	計
件数	123	2,125	33	0	2,281

③支援内容の内訳

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	虐待防止に関する支援	地域移行・地域定着に関する支援	その他	計
件数	1,903	8	6	22	2	1	0	0	8	0	6	0	34	315	2,305

④月別対応件数

	個別相談件数	対応ケース数	その内の新規ケース数	個別相談以外
4月	132	32	14	232
5月	133	38	15	200
6月	154	48	14	225
7月	122	28	5	131
8月	120	32	8	161
9月	101	34	10	166
10月	198	54	23	204
11月	168	46	8	173
12月	143	36	11	136
1月	125	30	8	200
2月	109	27	8	174
3月	156	43	18	279
合計	1,661	199	142	2,281

⑤地域の相談支援事業者の研修等

日付	テーマ及び内容	対象	備考
6月18日	【新任研修】 「令和3年度報酬改定に伴う計画相談に関わる加算及び支給決定基準について」 講師：千田 孝一 氏 （国分寺市福祉部 障害福祉課 事業推進係 係長） 市村 智美 氏 （国分寺市福祉部 障害福祉課 事業推進係 主任）	・相談支援事業所	参加者：12名

6 月 21 日 ｜ 6 月 28 日	【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 「地域移行支援 in 国分寺」 ～地域移行支援ワーキンググループ活動開始報告～ ①東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業から考える現状と課題 講師：津川 孝治　氏 （東京都立多摩総合精神保健福祉センター 広報援助課 地域体制整備担当） ②東京都地域移行体制整備支援事業から見た国分寺市の退院促進について 講師：毛塚 和英 氏 （地域生活支援センタープラッツ 東京都地域移行コーディネーター） ③国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会からの報告 報告者：伊澤 雄一 氏 （国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会長 / 社会福祉法人はらからの家福祉会 総合施設長）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・通所支援事業所 ・グループホーム ・地域包括支援センター ・行政 ・精神科病院 ・精神科クリニック ・訪問看護ステーション	オンデマンド研修 申込人数：125 名 （市内事業者：63 名 市外事業者：61 名） 再生回数：173 回
7 月 15 日	【ブラッシュアップ研修】 「消費生活相談について」 講師：柳澤 優次 氏 （国分寺市市民生活部 経済課 消費生活・ 就労支援担当 係長） 長澤 いつわ 氏 （国分寺市市民生活部 経済課 消費生活相談室 消費生活相談員）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター	オンライン研修 参加者：17 名
8 月 19 日	【事例勉強会】 「精神障害のある母と発達障害の疑いのある子の母子世帯への支援」 講師：西隈 亜紀 氏 （特定非営利活動法人東京フレンズ グループホーム キキ 施設長）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター	参加者：17 名
9 月 16 日	【事例検討会】 「児童（学齢期）から成人（青年期・壮年期）へ」 ～ライフステージを通じた支援の仕組みづくり～	・相談支援事業所	参加者：13 名
10 月 20 日	【ネットワーク研修Ⅱ（障害福祉-高齢福祉）】 「世帯を支える支援体制とは」 ～高齢の親の権利と障害のある子の権利～ 講師：足立 剛 氏（武蔵国分寺法律事務所 弁護士）	・市内相談支援事業所 ・地域包括支援センター ・社会福祉協議会等 ・行政機関	オンライン研修 参加者：25 名 （オンライン：19 名 会場参加：6 名）
10 月 22 日	【事例検討会】 「児童（学齢期）から成人（青年期・壮年期）へ」 ～ライフステージを通じた支援の仕組みづくり～	・相談支援事業所	参加者：12 名
12 月 1 日	【支援者向け虐待防止研修】 「これって虐待？」 ～重度障害者への意思決定支援～ 講師：芹澤 正博 氏（社会福祉法人あだちの里 希望の苑 副施設長）	・相談支援事業所 ・障害福祉サービス通所支援事業所 ・障害児通所支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・居宅介護事業所 ・短期入所事業所 ・保育、教育関係所 ・行政機関 ・その他福祉関係者　等	オンライン研修 参加者：90 名 （オンライン：67 名 会場参加：23 名）

12 月 16 日	【ブラッシュアップ研修】 「高齢者向けの住まいと種類と選び方」 講師：下田 麻由子 氏 （株式会社 介護施設研究所 所長）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター	参加者：10 名
1 月 21 日	【事例勉強会】 「地域で生活している精神障害のある方における課題整理」 講師：小野 加津子 氏 （株式会社円グループ 訪問看護ステーション音 所長）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター	参加者：11 名
2 月 22 日	【ネットワーク研修Ⅲ（児童）】 「性教育と性支援」 ～子どもに教えるために、 まず支援者が知っておくこと～ 講師：笹渕 真子 氏（東京都立府中けやきの森学園 養護教諭）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・児童発達支援事業所 ・放課後等デイサービス事業所 ・学校及び教育関係者 ・保育園、幼稚園、学童 ・障害福祉サービス通所支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・短期入所事業所 ・行政機関	オンライン研修 参加者：47 名 （オンライン：45 名 会場参加：2 名）
3 月 17 日	【ブラッシュアップ研修】 「対人援助職が知っておくと役に立つ神経生理学の基礎」 講師：角田 みすゞ 氏（ベル相談室 公認心理師 /臨床心理士）	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター	オンライン研修 参加者：13 名

⑥権利擁護関係連絡会等への出席

月	日	研 修 名	主 催	参加者
6	21	権利擁護関係機関連絡会	権利擁護センターこくぶんじ	中川
7	29	虐待防止研修（基礎編） 高齢者・障害者虐待の基礎的な概念理解	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	大浦
8	4	権利擁護関係機関連絡会	権利擁護センターこくぶんじ	中川
9	3	長期入院者の人権を考える～精神科病院の現状と弁護士の役割～	東京弁護士会	中川
9	4	つばさ市民福祉講座 わかりやすい！障害年金入門～障害年金の基本をおさえよう～	地域活動支援センターつばさ	銀川・藤木・益留・大浦
10	22	虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	銀川・藤木・益留・中川・大浦
10	27	e－ラーニング実践ゼミナール虐待防止	e-ラーニング	銀川・藤木・益留
11	13	多様なケアの担い手の存在を知ろう～ケアの価値を認め合う社会へ	地域活動支援センターつばさ	銀川・藤木
11	26	権利擁護の視点から考える高齢虐待～支援者として求められる役割と理解しておくべきポイント～	国分寺市高齢福祉課	益留・大浦
12	9	虐待防止研修（応用編）	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	大浦
2	8	権利擁護関係者連絡会 苦情対応研修	権利擁護センターこくぶんじ	銀川

Ⅴ　法人全体の取組

1　中期計画の作成

令和４年度より５年間の中期計画を策定した。計画の策定とともに、国分寺市障害者センターについては、第５期指定管理において実施することが求められている内容についての棚卸作業も一緒に行った。計画策定にあたっては、２点のことを意識して取り組んだ。一つ目は、国分寺市が策定した「第４次国分寺市障害者計画」等を参考に、国分寺市の傾向や求められているサービスについて検証し、市の計画との整合性を図った。二つ目は、事業の課題、課題への取組について主任も含め、話し合いを行いまとめた。令和４年度から５年間の計画であることから、日々現場にて支援を行っている主任、職員が今後どのような支援を提供するのか、課題は何か、その課題に対して自身は何ができるのかを考えることができるよう、そのツールの一つとして本計画を活用していきたい。

2　新型コロナウィルス感染症への対応

感染症が発生した２年目を迎えた令和３年度、感染症を持ち込まないことに留意しBCP計画に則り対策を周知徹底した。できる限りの対策をとりながらの運営の中、８月と２月に感染者が発生し、感染を最小限とすること、人の流れを抑えることが必要と判断し閉館とした。感染が発生した当初は、どのような対応が必要か分からず、不安が先行してしまったが、時間の経過とともに、国分寺市と対応策を協議しながら対策が少しずつ整っていった。その対応策の一つとして、感染者が増大し入院することが困難な社会情勢となった際、感染した利用者への支援を行う場所を市が設置し、そこで２月は支援を行うこととなった。医療の現場ではないことから、ゾーン分け、支援する職員の防護策等充分なことは難しかったが、ゾーン分けを行い、防護服を着用しての支援を実施した。通常の支援より緊張感や不安感を増すものであると判断し、このことを契機として「新型コロナウィルス感染症手当」を新しく手当として設置した。

発生した際、その都度悩み、話し合い、他法人や市と連携しながら実施してきたことを活かし、いましばらく続くことが予測されるコロナ禍の支援に活かしていきたい。

3　職員研修

令和３年度も多くの研修がオンラインで行われ、職員が受講できる環境を整え、業務の調整を行い、積極的に研修を受講した。

研修種別	研修数	参加者数
支援に関する研修	68	153
資格取得の為の研修	9	16
経験年数により参加する研修	8	15

事例検討会（スーパービジョン、コンサルテーション）

事業名	名前
地域活動支援センターつばさ	利用者事例検討会　12回 協力員スーパービジョン　3回
基幹相談支援センター	コンサルテーション　6回（事例検討数　2件）

4　権利侵害防止の取組

虐待を発生させない労働環境をつくることを目的として、外部講師を依頼しての研修を令和元年より３ケ年で実施することを予定していた。しかし、グループワークをメインとした内容であったが、感染症が発生し一同に会することができず、２年に渡り延期となった。令和３年度はようやく、会場を３ケ所に分けて、オンラインを活用し実施することができた。事業を超えて、106 人の職員が参加し、久しぶりにグループワークを実施することができた。令和４年度は、当初予定していた内容にて研修を実施予定である。

5　利用者の声を聴く取組

指定管理事業として運営している国分寺市障害者センターでは、通所事業と短期入所事業については第三者評価を、その他の事業については利用者アンケートを実施した。利用者の中には、ご自身のご意見を言葉で伝えることが難しい方もいらっしゃるが、第三者評価の事業者もコミュニケーションツールを活用する等、可能な限り利用者のご意見を聴くよう取り組んだ。

また、コロナ禍であることから、会場を数か所に分け、オンラインを活用しての利用者自治会を実施した。

6　個人情報保護についての取組

個人情報に関わる研修を定期的に実施してきたことから、大きな事故は発生しなかったが、令和３年度は５件の事故が発生した。秋に事故が発生した際は、ＳＨＥＬ分析を行い、個人情報を取り扱う際は、ダブルチェックの徹底を行うことを再度周知した。また、事故後に行われた職員会議では、チェックシートを活用して、各自個人情報を取り扱う際、ルールを守り適切に処理をしているかの確認作業を行った。これらの取組にもかかわらず、翌２月に再度郵便物を郵送する際、違う方に郵送してしまう事故が発生してしまった。今後も定期的にチェックシートを活用し、自身が適切に処理を行っているかの確認作業を行い、事故を発生させないよう努めたい。

7　会議の開催

(1)　内部会議　下表のとおり、それぞれの役割・職域に応じた会議を開催した。また、各事業のスタッフ会議を定期的に実施した。

会議名	開催日時	参加者	議案・内容
執行理事会	毎月第１火曜日 12 回開催	理事長・副理事長・常務理事 センター長・事務長	法人の運営方針、目標管理等について協議した。定例会以外に必要に応じて開催した。
経営会議	毎月第４火曜日 12 回開催	理事長・副理事長・常務理事 管理者・センター長・事務長	法人事業について検討し決定する場として実施した。令和３年度は、中期計画作成にむけ協議を行った。また、中期計画に係る検討は、課長、課長補佐も含め拡大メンバーにて協議した。
部門会議	毎月第１火曜日 12 回開催	各課部門長	感染症対策への対応、中期計画作成等法人全体に関わる内容について協議した。
職員会議	毎月第４水曜日 12 回開催	法人職員全員	法人の事業について報告し情報共有する場として実施した。感染症対策の一貫で障害者センター、KOCO・ジャムと２拠点をオンラインで繋ぎ実施した。

衛生委員会	毎月第3金曜日 12回開催	産業医・管理者・衛生管理者 主任看護師・看護師 職員の代表1名	毎月テーマを決め、その内容に基づく情報共有検討を行い、職員会議を通して情報の共有を行った。支援の現場が3拠点に分かれており、それぞれの衛生面、労働環境面からのパトロールを実施した。実施した際、ケアホームこの葉の衛生管理について、産業医より指摘を受け、清掃業者へ清掃委託も含め、大がかりの清掃を実施した。
虐待防止委員会	毎月第1火曜日 8回開催	各部門長	職員への啓発活動として実施する虐待防止研修の内容について協議した。
給食会議	毎月第2金曜日 12回開催	管理者・主任看護師・給食業者・各事業担当	給食について情報共有、検討を要する事柄について検討を行った。
広報委員会	毎月第1・3水曜日 24回開催	総務課担当者・各部門担当者	年2回発行とし内容を昨年度よりリニューアルした。掲載する原稿、写真と時間をかけ精査し発信したい内容が届くようアイディアを出し合い繰り返し協議を行った。
送迎会議	毎月第2月曜日 12回開催	送迎担当・送迎事業者	送迎について情報共有を行い、課題を検討した。

(2)外部団体・外部委員との会議

種別	開催日時	構成員	議案・内容
つばさ運営委員会	令和3年5月12日 令和3年9月8日 令和4年1月12日 午前10時～11時	運営委員　8人 管理者 地域支援課1課長・つばさ主任	地域支援部門の利用者、市内当事者団体の代表者の方よりご意見をいただく場として行った。

(3)関係機関との連絡会

種別	開催日時	参加者	議案・内容
国分寺市との連絡会	令和3年7月1日 午後3時30分～午後4時30分 令和3年11月4日 午後3時30分～午後4時30分	国分寺市障害福祉課 6人 社会福祉法人万葉の里 5人 国分寺市障害福祉課 6人 社会福祉法人万葉の里 5人	令和2年度障害者センター実績報告人工呼吸器利用者の事故対応について 令和3年度上半期報告、次期指定管理申請について情報共有
国分寺市障害者団体連絡協議会との懇談会	令和3年10月14日 午前10時～午後12時 令和4年3月17日 午前10時～午後12時	国障連　6人 社会福祉法人万葉の里 7人 国障連　6人 社会福祉法人万葉の里 6人	国分寺市障害者センター、KOCO・ジャム内事業について情報共有、意見交換 中期計画書について説明、意見交換

8　広報活動（HP,広報誌による情報提供）

令和3年度も定期刊行物「ことのは」を2回発行した。現委員による広報誌発行作業も2年目

を迎えた。記事の内容、掲載する写真等不適切な表現、内容はないか等、検討を重ねており、一定程度の評価ができる内容となっていると思われる。引継ぎ、利用者の方、地域の方に読んでいただけるよう努めていきたい。その他、各事業で企画や予定をお知らせするため定期的に便りを発行した。

名称	発行回数	配布先
太陽だより	月１回 12 回発行	生活介護事業太陽利用者/利用者ご家族
つばさだより	月１回 12 回発行	地域活動支援センター利用者/市民（障害者センターに配架）
この里だより	月１回 12 回発行	生活介護事業この里利用者/利用者ご家族

９　地域交流

例年実施していた「国分寺市障害者センター祭り」を今年度は、法人内のお祭りとしてKOCO・ジャム、国分寺市障害者センター２拠点をオンラインで繋ぎ、１週間に渡って実施した。開会式では、他団体の方が演奏を行い、会場は離れているが音楽をとおして一つになる機会となった。また、地域の方への発信として、利用者の作品をコミュニティ広場に掲示し取組を発信することも行った。その他、KOCO・ジャムの生活介護事業この里が日頃行っている「お仕事」や、当日まで練習を行ってきた「フラダンス」を紹介することも行った。期間が１週間と長かったことが、反省点として挙げられていたが、次年度に繋がる内容ではあった。

１０　ボランティア・実習生の受入れ

感染症の影響をうけながらも、社会福祉士の資格取得を目的とした実習生の受け入れを順に行った。人数や期間を限定的に行うこととなっているが、次世代を担う人材の育成の機会として活用いただいた。中学生の職場体験は、残念ながら受け入れできなかったが、次年度以降、積極的に受けいれを行いたいプログラムと捉えている。

１１　安全管理・防災訓練

国分寺市障害者センター、ケアホームひかり、KOCO・ジャムとそれぞれ火災を想定しての避難訓練を実施した。これまで訓練を実施してきた中で、避難するにあたって必要な避難の為の道具を購入する等し、少しずつではあるが、安全に迅速に避難できるようになっている。

ヒヤリ、ハッとしたことについて「ヒヤリハット報告書」を提出する作業を継続して行っている。それぞれの気づきを全体で共有し、大きな事故へと繋げないことを目指して取り組んでいる。令和３年度は、職員会議にておいて、提出された報告書をもとに総務課担当者が資料を作成し、発信する取組も行った。職員一人ひとりが、危険を察知するアンテナを高くできるよう、継続して取り組んでいきたい。

１２　健康管理

コロナ感染症に対しては、３回にわたるワクチン接種を市内のクリニックにご協力いただき、国分寺市障害者センター、KOCO・ジャム、ケアホームひかりと３拠点での接種を実施した。１，２回目の接種は職員を含め１００人を超える人数であったが、日頃通所されている場所、生活さ

国分寺市障害者センター、KOCO・ジャム、ケアホームひかりと３拠点での接種を実施した。１，２回目の接種は職員を含め１００人を超える人数であったが、日頃通所されている場所、生活されている場所で実施できたのは良かった点である。感染がなかなか収束しない中で、職員が安心して従事できるよう、対策を整えていくことが必要である。

例年実施している「ストレスチェック」を今年度も実施した。メンタルの不調により、眠れない等の体調不良を訴える職員が増えている。コロナ禍で職員同士の交流が減っており、日頃不安に思っていること、抱えていることを人に伝える機会が減っている。そのため、発散がしにくい状況にあると思われる。コロナ禍の収束がみえない中ではあるが、管理職にある者達が、職員とのコミュニケーションを意識的に取り組み、一人で抱えない環境を目指していきたい。

Ⅵ　理事会・評議員会

1 理事会

	日時	主な議案・報告
第１回	令和３年５月 27 日	議案　①令和２年度事業報告の承認について ②令和２年度決算の承認について ③評議員候補者について ④第 11 期理事・監事候補者について ⑤第 10 期評議員候補者について ⑥第２期評議員選任・解任委員候補者について ⑦令和３年度定時評議員会の招集について ⑧社会福祉法人万葉の里　定款細則別表一部改訂について ⑨社会福祉法人万葉の里　評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規程の改訂について 報告　①理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第２回	令和３年６月 15 日	議案　①社会福祉法人万葉の里　理事長の選任について ②社会福祉法人万葉の里　副理事長の選任について ③社会福祉法人万葉の里　業務執行理事の選任について
第３回	令和３年 11 月 25 日	議案　①令和３年度　補正予算について 報告　①令和３年度上半期事業報告について ②理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第４回	令和４年１月 27 日	議案　①社会福祉法人万葉の里　就業規則の一部改正について ②社会福祉法人万葉の里　ハラスメント防止規程について ③社会福祉法人万葉の里　給与規程の一部改正について ④社会福祉法人万葉の里　国分寺市障害者センター管理者の定年退職に伴う任免について ⑤国分寺市障害者センター管理業務委託契約について
第５回	令和４年３月２４日	議案　①社会福祉法人万葉の里　給与規程の一部改正について ②令和３年度補正予算（案）について ③社会福祉法人万葉の里　中期計画（案）について ④令和４年度事業計画（案）について ⑤令和４年度予算（案）について ⑥社会福祉法人万葉の里　令和４年度第１回評議員会招集について 報告　①理事長・執行理事の業務執行状況報告について

2 評議員会

	日時	主な議案・報告
第１回定時	令和３年６月 15 日	議案　①令和２年度計算書類及び財産目録の承認について ②第 11 期理事・監事候補者について ③評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規程の改訂について 報告　①令和２年度事業報告について